

Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

南極・南米ワールドクルーズ、出航です！

Date : 2015/12/10 緯度 : N 35度 27分 経度 : E 139度 39分 天気 : 曇り 気温 : 15.0度 速度 : 0ノット
海域 : - 寄港地 : 横浜



飛鳥IIの「南極・南米ワールドクルーズ 2015-2016」。きょうは待ちに待ったその出航日です。横浜港大さん橋国際客船ターミナルにたくさんのお見送りのご家族やお友達が詰めかける中、プラスバンドの演奏をバックに出航セレモニーが行われました。

総トン数5万142トン、12階建て全長241mの白亜の船体が岸壁を離れたのは、定刻通りの14時です。紙テープが舞い風船が空へと上がり、「いってらっしゃーい！」「いってきまーす！」の大合唱。7デッキ右舷でのセイルアウェイ・パーティーは100日間の長旅にふさわしい晴れやかな雰囲気になりました。

東京湾の出口で水先案内人に別れを告げる頃には薄日も差して、行く手には空と海がミルク色にとろけたような幻想的な太平洋が……。夜にはキャプテン・機関長・ホテルマネージャーによる鏡開き、クルー&スタッフの紹介などもありました。まだ見ぬ寄港地に思いを馳せて、賑やかに夜が更けて行きました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

クルーズライフの始まり

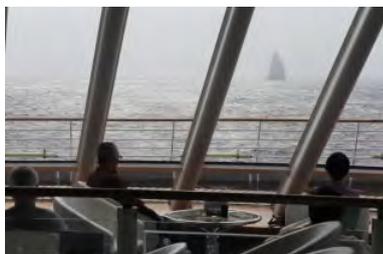
Date : 2015/12/11 緯度 : N 30度 2分 経度 : E 140度 25分 天気 : 曇り 気温 : 22.5度 速度 : 16.5ノット
海域 : 日本近海 寄港地 : 終日航海日



日常のさまざまな雑事を陸地に置いて大海原へと出てゆく度に、船旅に出てよかったなあと思います。横浜を出て最初の終日航海日となるきょうは、そんなクルーズライフの始まりの日。

船内各所で教室の説明会があり、中には社交ダンス教室のようにさっそく1回目の教室が開催されたものもありました。今回のクルーズは特に教室数が盛りだくさん。写真、手芸、囲碁、ゴルフ、ガラスアート、声楽、ピアノ、俳句、着付け等々……。 「どれにしようか迷っちゃう」という声も聞こえてきそう。

船旅の醍醐味のひとつでもある毎晩のショーも今宵が最初。トップバッターを務めた「西川啓光プレゼンツ 伊藤圭佑 津軽三味線コンサート」では、津軽三味線と尺八、邦楽パーカッションによる活気溢れるリズムから、三味線と徒然草の語りのコラボレーションまで、抑揚に富んだ雅やかなステージを満喫できました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

硫黄島とフォーマルナイト

Date：2015/12/12 緯度：N 24度 1分 経度：E 141度 29分 天気：曇り 気温：27.5度 速度：16.6ノット
海域：日本近海 寄港地：終日航海日



太平洋を南下して3日目。出航以来曇りがちだった天気も持ち直し、午前8時半、硫黄島を見渡す頃には晴れ間も覗きました。気温は正午時点で28度。クルーの制服がきょうから夏服へと変わり、お客様にも半袖の方がちらほらと。船が確実に赤道へと近づいていると実感できます。

硫黄島は文字通り噴煙上げる硫黄の島で、毎年25cmも隆起しているから栈橋が作れないのだそうです。南端にそびえているのは特徴的なかたちの摺鉢山。多くの方がデッキに出てその光景に見入っていました。

そして夜は今航初のフォーマルナイト。キャプテン主催のウェルカムパーティーがギャラクシーラウンジで行われ、飛鳥25周年を祝うアニバーサリーディナーでは、瀧総料理長による和のテイストを取り入れた美味しいフルコースを堪能できました。どなたも着飾って、優雅な晩のひとつときを楽しまれていたようです。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

お気に入りの居場所を見つける

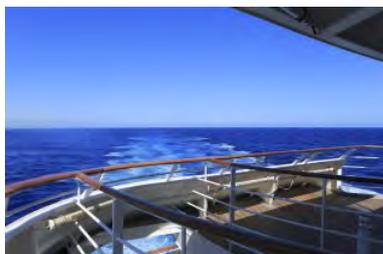
Date : 2015/12/13 緯度 : N 17度 32分 経度 : E 143度 49分 天気 : 晴れ 気温 : 28.0度 速度 : 16.5ノット
海域 : 北太平洋 寄港地 : 終日航海日



ロングクルーズは旅立って数日が過ぎると、船内の空気が次第に「華やか」から「穏やか」の方向へと変わる気がします。どなたもスーツケースや段ボールにいっぱいの荷物を自室に解いて、束の間の我が家を作り上げた頃でしょう。初乗船の方も慣れた方も、思い思いに船内の「我が居場所」へと向かい始めるのです。

筆者が足を運んだのは11デッキ前方のビスタラウンジ（写真上）。特に晴れ渡った日中は眺めも抜群の特等席です。先にいらしたお客様も「やっぱりここよね」という感じで、楽しくご一緒させて頂きました。

それから7デッキの屋外もいいですね。ここは船をぐるっと一周できるようになっていますから、朝夕のウォーキングを既に日課にされている方も多いに違いありません。夕暮れ時にその7デッキの船尾に出てみたら、西の空がきれいに赤く染まっていました。きょうもまた、素敵な1日になりました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

洋上ゴルフレッスン

Date：2015/12/14 緯度：N 10度 46分 経度：E 145度 50分 天気：晴れ 気温：28.0度 速度：16.1ノット
海域：北太平洋 寄港地：終日航海日



昨夜遅くにグアム島とロタ島の間をすり抜けるように通過して、飛鳥IIは順調に南下を続けています。シーホースプールもようやくオープン。まだどなたも泳いではいみせんでしたが、水色に輝くプールは借景としても十分に船旅らしさを演出してくれています。

さて、冬の日本を後にして温暖な海域へと来たのですから、デッキで楽しむアクティビティをご紹介したいところです。筆頭やはりゴルフ。井上浩助ティーチングプロ（写真右下）による個人レッスンが終日航海日の午前と午後、潮風そよぐ6デッキ後方の屋外で行われています。きょうもさっそく予約が埋まる盛況ぶり。

「グリップはもっと柔らかく。握らないくらいでいいんです」と言われて半信半疑のお客様。しかし打ってみると何とその方が「当たるし飛ぶ」。井上先生が冗談半分、「僕は一瞬でうまくすることで有名なんですよ」と仰っていましたが、事実、きょうのお客様は小さなコツで大きな成果を掴んでいたようです。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

ブリッジオープンと海の話

Date : 2015/12/15 緯度 : N 4度 10分 経度 : E 147度 31分 天気 : 晴れ 気温 : 29.5度 速度 : 15.2ノット
海域 : 北太平洋 寄港地 : 終日航海日



航海中は通常、朝の8時50分にキャプテンによる船内放送があります。その今朝の航海情報によると飛鳥IIは現在「カロリン諸島とビスマルク諸島の間」を航行中。日本の陸地での生活からすると、なかなか馴染みのない地名かもしれません。まさに船旅でしか行けないところに私たちはいるわけです。

そんな船旅をいっそう実感できるのが、9時から行われた操舵室の見学会「ブリッジオープン」。普段は入れない操舵室に入ってキャプテンや航海士の話の聞いたり、記念撮影に興じたり……。たくさんの機械や机に広げられた海図などを、どなたも興味深くご覧になられたようでした。

また、海洋フォトジャーナリストの越智隆治先生（左下）による講演も満員御礼の盛況ぶり。バショウカジキやマンタに始まりクジラやイルカ、そしてサメまで、ふだん知ることのない海の中の生き物たちの生態を、美しい写真で見せてくれました。これから続く南の島の寄港地が、よりいっそう待ち遠しく思えます。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

赤道通過祭

Date : 2015/12/16 緯度 : S 2度 11分 経度 : E 149度 17分 天気 : 曇り 気温 : 28.5度 速度 : 13.4ノット
海域 : 南太平洋 寄港地 : 終日航海日



太平洋を一路南へ下ってきた飛鳥IIは昨晚遅くに赤道を越え、ついに南半球に到達しました。赤道通過時刻はお客様へのクイズになっていて、今夕にデッキで催された「赤道通過祭」で正解者を発表。時刻は午前2時22分。偶然のぞろ目もあってか少し多めの5名様が見事に正解されました。

この赤道通過祭、船が赤道を越える際の道化芝居的な儀式にちなんで飛鳥IIでも恒例行事となっています。キャプテン以下のオフィサー陣はクルーズスタッフ扮する海賊や海神ネプチューンによってももの見事に手玉に取られるも、最後にはネプチューンから通過の許しを勝ち取る。そんなストーリーにお客様も大盛り上がり。

写真左下、海賊に剣道の早素振りをさせられているのが増山キャプテンです。ほかにもホテルマネージャーはコサックダンス、機関長はうさぎ跳び、チーフパーサーは……ええと、敢えてここには記しませんが（笑）、皆さん意外な一面を披露してくれて、笑いに満ちた賑やかな晩となりました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

南洋の陽射しが降り注ぐ今航最初の寄港地

Date : 2015/12/17 緯度 : S 4度 13分 経度 : E 152度 10分 天気 : 晴れ 気温 : 32.0度 速度 : 0ノット
海域 : - 寄港地 : ラバウル



クルーズ8日目の朝7時、飛鳥IIはパプアニューギニアのラバウルに着きました。周囲を複数の火山に囲まれたsimpson湾には大きな栈橋がなく、錨を降ろしてテンドーボートで上陸します。今航最初の寄港地では無料の招待ツアーが催され、お客様はそれぞれのバンに分乗して観光に出掛けられました。

ここラバウルでは1994年に湾を挟む2つの火山が同時に噴火。降灰で町が移転したために、いまではのどかな入り江の村といった風情です。船着き場にはお土産を売る人たちが集まって、臨時の青空市場のようでした。またご存知の通り先の大戦の激戦地ともなった場所であり、記憶に残るところです。

ツアーでは南太平洋戦没者の碑や山本五十六・連合艦隊司令長官が戦死前日に会議を開いたという山本バンカーへも行きました。赤道直下の陽射しのもとで穏やかな入り江を丘上から望み、地元の子供たちの屈託のない笑顔を見るにつけ、つくづく平和の大切さを思います。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

ガラスアート教室

Date : 2015/12/18 緯度 : N 8度 49分 経度 : E 155度 19分 天気 : 晴れ 気温 : 29.0度 速度 : 16.3ノット
海域 : 北太平洋 寄港地 : 終日航海日



最初の寄港地ラバウルを昨夕出発して再びの終日航海日。次なるニューカレドニアのヌーメアまでは中3日の航海です。「終日航海日は退屈ではないのか」という疑問が杞憂であることは既に多くの方々に知られるところとなりましたが、その通り、きょうも各所でたくさんの教室や催し物が開かれています。

そのひとつ、尾崎稔成先生のガラスアート教室では、5人のお客様が「パート・ド・ヴェール」に熱中されていました。粘土で鳥などの動物のかたちを作り、石膏の型を起こし、ガラス粉を詰めて焼成します。今回は2回目の教室で、石膏から粘土を取り除いて型を完成させるところまで。

「掻き出すのではなく、くっつけて取る感覚です。型を傷つけないように慎重に」。先生のアドバイスに従って、どなたも上手に型を完成させられたようです。まるでグラニュー糖のようにさらさらした白いガラス粉には「何だか美味しそう！」という声も。自らの手を動かしてモノを作る、素敵な洋上のひとときでした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

頭の体操@SEA

Date : 2015/12/19 緯度 : S 14度 33分 経度 : E 159度 12分 天気 : 晴れ 気温 : 28.0度 速度 : 15.7ノット
海域 : 南太平洋 寄港地 : 終日航海日



きのうの深夜に2度目の時刻改正がありました。東へ向かう飛鳥IIの船内時刻はいま、日本より2時間進んでいます。日本が朝10時だとするとこちらは正午。船上では毎度こうして次なる寄港地との時差を調整してゆくのですが、1日が23時間になった日でも皆さん朝から元気いっぱいです。

今朝、最初に筆者が覗いてみたのは南米の寄港地に備えて開催された「ちょっと本気のスペイン語教室」の第1回(写真左下)。教えていたのは何と増田裕太アシスタントクルーズディレクター。スペイン語ができるなんて意外や意外。馴染みのお客様も「アナタ、きょうは男を上げたわよ」と冗談を仰るくらいでした。

そして囲碁教室は飛鳥IIお馴染みのマイケル・レドモンド先生が担当、午後の中級クラスも盛況です。今回は中国のプロ棋士だという奥様も教室をサポートし、おふたりで指導碁に臨んでいました。窓の外には真っ青な海。各種教室で楽しむこうした頭の体操も、まとまった時間が取れる船旅ならではの楽しみですね。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

ポリネシアンデッキディナー

Date：2015/12/20 緯度：S 20度 13分 経度：E 163度 15分 天気：晴れ 気温：26.0度 速度：13.4ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



きょうは「2017年アジアパシフィックグランドクルーズ」の発表がありました。2017年1月23日横浜発で3月2日横浜着ないしは3月1日神戸着。販売開始は2016年2月26日。初寄港地2港を含む11港を訪ねる充実のコースです。写真左下、クルーズセールスオフィスには早くもお客様が船上仮予約に訪れていました。

さて、こうした暖かい南の海をゆく上で欠かせない楽しみのひとつが、プールサイドで味わうデッキディナーです。きょうが今航最初のその日、「ポリネシアンデッキディナー」の晩でした。魚介やお肉を豪快に焼くバーベキューから新鮮なフルーツまでがずらりと並び、どなたも美味しい食事とお酒を満喫できたことでしょう。

優秀クルーの表彰やそれを祝うサプライズでニュージーランド・マオリ族の踊り「ハカ」、そしてボサノヴァデュオによる美しい歌声、恒例のダンスタイムなど催し物も目白押し。お客様の中には民族衣装や仮装など思い思いの格好に身を包む方もいて、デッキディナーを大いに盛り上げてくださっていたようです。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

天国にいちばん近い島

Date : 2015/12/21 緯度 : S 22度 16分 経度 : E 166度 26分 天気 : 曇り 気温 : 27.0度 速度 : 0ノット
海域 : - 寄港地 : ヌーメア



今朝早く、飛鳥IIは「天国にいちばん近い島」ニューカレドニアのヌーメアに入港しました。フランスの海外領土としてフランス語が話される、プチ・パリの雰囲気醸すビーチリゾートです。筆者は「灯台の島 アメデ島を訪ねて」に参加しました。なんとこの島、今回は飛鳥IIのお客様だけで貸し切りなのです。

アメデ島へはヌーメアの港から専用ボートで沖合へ45分。曇りがちだった天気も島に着く頃にはご覧の通りぴっかぴかの晴天に！ ナポレオン三世の時代に築かれた白亜の灯台がそびえる小島は本当にきれいでした。グラスボトムボートに乗ったり、浜辺でのんびり寛いだり、シュノーケリングを試してみたり……。

思い思いに過ごしたあとは浜辺でビュッフェランチ。美味しい料理を味わいながらのポリネシアンダンス観賞も素敵でしたね。「ヤシの木登りショー」や「パレオの着付けショー」といったお客様も参加しての楽しいイベントもありました。珊瑚礁に囲まれた小さな灯台の島、どなたも満喫されていたようです。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

洋上の夏を感じる「飛鳥祭り」

Date：2015/12/22 緯度：S 26度 28分 経度：E 168度 49分 天気：晴れ 気温：24.0度 速度：16.1ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



冬の日本を後にして一気に赤道を越えた飛鳥IIの船上は、出航数日後から常夏です。それが今朝になって急に、吹く風が少しだけ涼しく感じられるようになりました。いまの南半球は夏ながら、ニュージーランドのオークランドへ向けて亜熱帯を後にしつつあるのだと実感できます。

そんなひと夏の思い出を名残惜しむかのような船上イベント「飛鳥祭り」が、きょう、夕暮れのプールサイドで開催されました。よさこい、竿燈、阿波おどり、ねぶた祭りの日本を代表するお祭りが一堂に会する催しで、はっぴや浴衣に身を包んだお客様でデッキの上は大賑わい。

増山キャプテン（写真右下、最前列右）をはじめクルーやスタッフたちもお祭り気分を大いに盛り上げてくれました。美声を披露したホテルマネージャーやコミカルな仮装で登場したクルーズコーディネーターももちろんですが、練習の成果を披露できたお客様の溢れる笑顔が何にも増して輝いて見えた晩でした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

クルーズといえば、のダンス教室

Date : 2015/12/23 緯度 : S 32度 31分 経度 : E 172度 56分 天気 : 曇り 気温 : 19.5度 速度 : 13.5ノット
海域 : 南太平洋 寄港地 : 終日航海日



オークランドへ向かう飛鳥IIは昨晚4度目の前進の時刻改正を済ませ、日本との時差が4時間になりました。気温もだいぶ下がってきょうの最高気温は21度。外のデッキでは長袖のお客様が多くなりました。かように季節や気候帯をまたいで旅する船ですが、涼しい屋外とは関係なしに熱気に満ちた教室も存在します。

そのひとつがダンス教室。「クルーズといえばダンス」と考える方も多いように、華やかな船旅とダンスは昔から切っても切れない関係です。だからこの船上でも横浜出航時からずっと、終日航海日には毎日ダンス教室が開かれています。教えているのは山下昌美先生と中洋子先生のおふたりです。

午後の中級クラスはワルツをちょうど一周の半分まで習ったところ。この100日間でのマスターを目指します。「船上では皆さんまとまった時間が取れるので、陸地の教室よりも突っ込んだ内容ができるんですよ」と山下先生。楽しく優雅に真剣に、そしてしばしば笑みもこぼれる、定番とも言うべき人気教室なのでした。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

カウリの森とワイナリー

Date：2015/12/24 緯度：S 36度 51分 経度：E 174度 46分 天気：曇り 気温：19.0度 速度：0ノット
海域：- 寄港地：オークランド



入り江の奥へと続く水路を辿り、飛鳥IIは予定よりもちょっと早めの今朝10時頃、ニュージーランドのオークランドに入港しました。ここにはヨットがずらりと並ぶマリーナが随所にあって、シティ・オブ・セイルズ（帆の街）と呼ばれるほど。立派なビルも立ち並び、乗船中のお客様には久しぶりの都会です。

筆者は半日ツアー「ムリワイビーチとカウリの森ハイキング」に参加しました。人口の8倍いるとも言われる牧場の羊たちの群れを横目に見つつ、バスで森へと駆け上がります。あいにくの雨模様とはいえ、ハイキングでは巨大なカウリの木や銀シダなどの生い茂る森が豊かな自然を感じさせてくれました。

仕上げはワイナリーでの試飲です。定番のソーヴィニヨンブランやピノグリ、甘いスパークリングマスカットなど5種類の美味しいワインを味わいました。クリスマスイブの港町は派手なイルミネーションこそないけれど、穏やかで素敵な雰囲気でした。桟橋の係員が微笑とともに「メリークリスマス」と声を掛けてくれました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

12月25日 A (1日目) 東へ行く船の上ではクリスマスが2回!?

Date：2015/12/25 緯度：S 34度 10分 経度：E 178度 6分 天気：曇り 気温：19.0度 速度：14.7ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



表題の違和感に気づいた方もいらっしゃるでしょう。きょうの日付は「12月25日A」です。船が東へ向かって日付変更線をまたぐ際には、同じ日付を2度続けることで陸地のカレンダーとのズレを解消するわけです。なので今航では12月に25日Aと25日Bが存在します。何とクリスマスが2度もあるんです(笑)。

1日目となる25日Aは晩のドレスコードがインフォーマル。皆さん思い思いに着飾ってメインダイニング「フォーシーズン・ダイニングルーム」に向かいます。レセプションまわりはクリスマスの飾り付けも華やかで、ダイニングの入口には飛鳥IIを象った氷の彫刻も登場。記念写真に興じる方も多かったようです。

瀧総料理長を筆頭とするシェフたちが腕を振るったスペシャルディナーは松阪豚のテリーヌに始まり、サーモンのマリネ(写真右下)やメインとなる鹿児島産黒毛和牛フィレ肉とフォアグラのポワレ マデラソース(写真上)、スパイス紅茶のプッシュドノエルなど、どのひと皿も本当に美味しく、満ち足りた気分になりました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

12月25日 B (2日目) 大喝采のクリスマスデッキディナー

Date：2015/12/25 緯度：S 30度 5分 経度：W 174度 41分 天気：晴れ 気温：21.5度 速度：13.9ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



オークランドからタヒチへと北東に針路を取る飛鳥IIのデッキには、再び暑い気候が戻ってきました。船上2度目のクリスマスとなるきょう、12月25日Bは楽しいデッキディナーです。サンタやトナカイなどの衣装に身を包んだクルーズスタッフたちが南洋のクリスマス気分を盛り上げてくれています。

そしてデッキディナーのスペシャルイベントは音楽教室の河野浩亮先生（声楽）の歌声。伴奏はピアノの門真帆先生です。ふだんの教室でも人気の若いふたりがステージに上がりました。河野先生ののびやかで張りのある歌声がプールデッキに響き渡るとお客様は大喝采。アンコールを含めて計3曲を披露してくれました。

個人レッスンなどで日ごろ直接教えてくれている教室講師が突然ステージ上に現れて圧巻の実力を発揮したわけですから、きょうのお客様の笑顔は格別でした。感嘆、絶賛の声が方々から上がり、歌い終われば記念撮影の嵐です。2晩連続のクリスマス、お客様には大きな大きなプレゼントになったようです。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

「大晦日に第九を歌おう」教室

Date：2015/12/26 緯度：S 26度 32分 経度：W 169度 20分 天気：晴れ 気温：21.5度 速度：13.7ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



昨晚クリスマスデッキディナーのステージにも登場した音楽教室の河野浩亮先生（声楽）、門真帆先生（ピアノ）は、それぞれに30分単位の有料個人レッスンをマリナーズクラブで行っているほか、おふたりで教える無料の教室「大晦日に第九を歌おう」も受け持っています。

きょうの筆者はその第九の教室7回中6回目に参加しました。ざっと見ても150人以上のお客様が6デッキのクラブ2100に集っていて満員御礼です。教室は発声練習と『サンタ・ルチア』、そして『サンタ・ルチア』のメロディーに『ふるさと』の歌詞をのせて歌うユニークなウォーミングアップから始まりました。

その後はメインの第九。今回は日本語の歌詞で歌うのですが、歌詞があやふやになって声が小さくなると河野先生はすかさずストップをかけ、「『自分がいちばん正しい』という気持ちで思い切って歌う心が大切です」とアドバイス。大晦日の本番に向けてどなたも一生懸命に練習なさっていたようです。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

デッキから見る風景は

Date：2015/12/26 緯度：S 23度 32分 経度：W 163度 59分 天気：曇り 気温：26.0度 速度：13.5ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



オークランドを出て4日目の終日航海日。曇りがちではあるものの、白く柔らかな光に包まれた大海原を順調に東北東へと進んでいます。新たな講演者やエンターテイナーも多数乗船し、船内はふたたび賑やかな雰囲気になってきました。14時からは、脚本家の一色伸幸先生（写真左下）の講演がありました。

演題は「旅行記・自分史・エッセイを書こう」。正解がひとつに定まることのない文章の世界だけに、お話は大いに参考になりました。短く短く、読む人の身になって。ドラマも見る側は感情を動かして欲しいと思っている。日本語は五月雨、ぼたん雪、細雪など降ってくるものに敏感な言語、等々……。

お手本として披露してくれた文章は、雨に濡れつつ携帯電話で家族と連絡を取る外国人クルーたちを描いた内容で、一流の方の視点は違うなあと感嘆しきり。そんなことを考えながら夕暮れ時にデッキに出ると、写真の通り、曇り空が一瞬にしてえも言われぬ色合いに！ 船旅って、見るものすべてが素敵な題材になりますね。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

お正月に向けて

Date : 2015/12/28 緯度 : S 21度 0分 経度 : W 159度 11分 天気 : 曇り 気温 : 25.0度 速度 : 13.7ノット
海域 : 南太平洋 寄港地 : 終日航海日



今朝8時、増山キャプテンから普段よりちょっと早めの船内放送がありました。「クック諸島のラロトンガ島が左舷側にご覧になれます」。大海をゆく中でこうして時折陸地を望み、そこに人が暮らしている気配を感じると、何だか急に、人間の生活や文化について思い巡らせてみたりするものです。

さて、出航以来クリスマスの装飾がなされていた船内ですが、昨日からお正月の雰囲気へと一変しました。きょう14時にはプールサイドで餅つき大会。紅白の垂れ幕が下がるステージ上で、法被を着たお客様が代わる代わる杵を振り上げてはお餅をついています。どなたもとびきりの笑顔で楽しそう。

南太平洋をゆく船には季節感がないのでは？と思う向きもあるかもしれませんが、ご覧の通りそんなことはありません。寄港先や海域を楽しむのと同様に日本の季節感も大切にされていて、お正月に向けたイベントも盛りだくさん。その第一弾が餅つき大会というわけです。飛鳥IIにも確実に、新たな年が近づいているのです。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

幸せのクルーズライフ

Date：2015/12/29 緯度：S 18度 57分 経度：W 153度 44分 天気：曇り 気温：27.0度 速度：13.4ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



2度にわたる脳科学者・茂木健一郎さん（写真左下）の講演は面白かったですね。前回のお話では、週3度の運動や「予想外の新たな何かに出会う」ことが脳のアンチエイジングに役立つと教わりました。だから飛鳥IIで未知なる寄港地を訪ねたり、教室で新たな何かを学んだりも脳にもとてもいいのだと……。

そして今朝の講演では、幸せとは決してある特定の要素——たとえば莫大な富を得たり結婚して家族を持ったり——で決まるわけではないと聞きました。「自らの個性を受け入れて前向きに生き、人との絆を実感することこそが結果的に幸せに繋がる」と昨今の科学研究で明らかになっているのだそうです。

12デッキの和室「游仙」で行われる着付け教室のお客様がとても若々しく颯爽として見えたのは、だからきっと、単に美しい着物に身を包んでいるだけでなく、この旅で得つつあるさまざまな新たな体験やお友達との出会いからくる内面の美しさも加わっているに違いありません。皆さん、とっても素敵です！



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

天然の水族館でエイといっしょに

Date：2015/12/30 緯度：S 17度 30分 経度：W 149度 52分 天気：晴れ 気温：29.5度 速度：0ノット
海域：- 寄港地：モーレア島/パペーテ



画家ゴーギャンがまるで古城のようだと評した起伏に富んだ絶壁が迫るモーレア島。その入り江に、飛鳥IIは朝7時に錨を降ろしました。テンダーボートで上陸して皆さんそれぞれにツアーを楽しみます。筆者は「モーレア島ボート遊覧と無人島体験」に参加。予報を覆す快晴で海はご覧の通りの美しさ。

水色のラグーン（環礁）の浅瀬に集まるエイやサメは、おとなしいから一緒に泳いでも大丈夫です。天然の水族館とはまさにこのことで、輝く海が本当に素敵でした。エイの体は触るとかなり柔らかく、ヌメっとしていて不思議な感触。お客様はどなたも水着で海に入って楽しんでいらっしゃいました。

そしてお昼は無人島でのバーベキュー。そこでもシュノーケリングをしたりココナツ割りのショーを見たりして、夢に思い描いた通りの素晴らしい「南の島」を満喫できました。飛鳥IIは15時には抜錨、18時にはお隣タヒチ島のパペーテに入港しています。今夜は今航最初のオーバーナイトの停泊です。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

4WD丘陵ドライブと年越しイベント

Date：2015/12/31 緯度：S 17度 32分 経度：W 149度 34分 天気：晴れ 気温：29.0度 速度：0ノット
海域：- 寄港地：パペーテ



飛鳥IIはフランス領ポリネシアのタヒチ島、パペーテ港で朝を迎えました。きょうの筆者は「タヒチ島4WD丘陵ドライブ（午前）」に参加。何台もの四輪駆動車で車列を組んで山の奥へと分け入るさまは探検隊そのものです。荷台に設えた椅子に座って風を感じるドライブに気分も思わず高揚します。

砂利道を駆け川を渡って坂を上ると、絶壁から垂直に落ちるいくつもの美しい滝が見えました。大満足で船に戻れば今度はイベントが目白押し。何せきょうは大晦日。音楽教室「大晦日に第九を歌おう」の集大成となる発表会は大成功、レセプション前のアスカプラザで150人以上が声を合わせる姿は感動的でした。

三遊亭金八師匠の「年越し落語会」も飛鳥IIの船上ならではの笑いが豊富で、皆さん大いに楽しんでいましたよね。そして年越しのカウントダウンを兼ねた「第25回NYK紅白歌合戦」ではクルーズスタッフはもとより、チーフパーサーやキャプテンまでが自慢の歌声を披露。賑やかな年越しとなりました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

南太平洋で迎えるお正月

Date : 2016/01/01 緯度 : S 19度 23分 経度 : W 145度 0分 天気 : 晴れ 気温 : 27.5度 速度 : 13.9ノット
海域 : 南太平洋 寄港地 : 終日航海日



新年あけましておめでとうございます。飛鳥IIは南太平洋、大海原の真ん中で新たな年を迎えています。初日の出は朝5時13分。水平線にやや雲がありました。11デッキ前方のビスタラウンジから、左舷前方の雲間に顔を出す朝日を拝むことができました。

続いてプールサイドでは年男・年女による鏡開き。振り袖姿のクルーズスタッフやソーシャルオフィサーも華を添えていましたね。三遊亭金八師匠・金原亭龍馬師匠による獅子舞がフォーシーズン・ダイニングルーム前に登場。「嘶家ゆえに通常よりもいっそう賑やかな」笑い溢れる獅子舞が元日の朝を祝福してくれました。

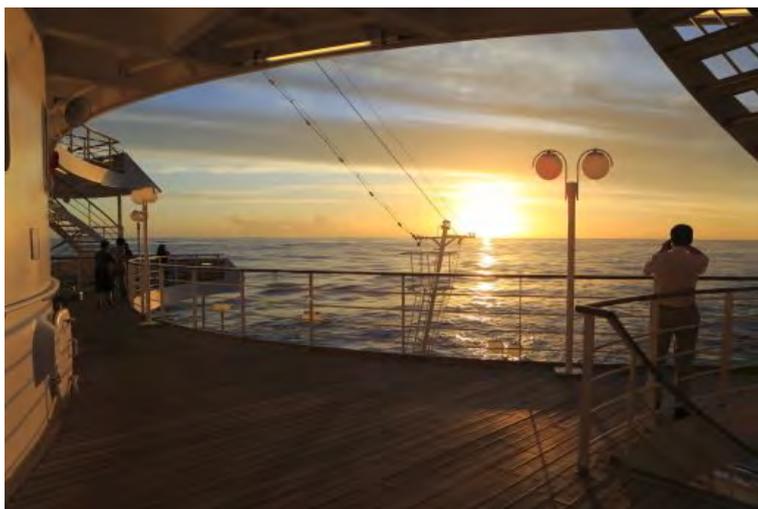
飛鳥II史上でも珍しい、ワールドクルーズ中のおせち料理も最高でした。「これを食べただけでも今回のクルーズに乗った甲斐があった」なんて仰る方もいるくらい。龍総料理長以下、シェフたちが腕によりを掛けた料理は写真の通り。窓外は碧く暖かな南洋ですが、船内ではしっかりと日本のお正月を満喫しています。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

洋上の書道教室

Date : 2016/01/02 緯度 : S 22度 3分 経度 : W 139度 43分 天気 : 晴れ 気温 : 26.5度 速度 : 13.6ノット
海域 : 南太平洋 寄港地 : 終日航海日



年越し前後は船内イベントが盛りだくさんで、とても一度では紹介しきれません。元日の「『書』パフォーマンス」もそのひとつ。だから大きな作品が6デッキに飾られていたのを見て「そうだ、きょうは書道教室にお邪魔しよう」と思いつきました。教えてくれるのは福島霞葉先生、栃木郁子先生のおふたりです。

この日のお題は2016年のカレンダーを飾る「書」を書くこと。「うまく書こうと思わないでください。自分らしい字でいいですよ」と福島先生。陽射しが明るい11デッキのリドカフェでマイペースで筆を運ぶ。そんなひとときに、船旅らしい緩やかな時間の流れを感じます。

ふと窓外に目をやると、いくぶんうねりはあるけど風がない、不思議に滑らかな海面でした。夕方になると今度は右舷後方の夕焼けが素晴らしい色合いで、ブリッジからお客様に向けて「きれいな夕焼けがご覧になれます」という放送もあったほど。多くの方が茜色に染まる南太平洋を楽しんでいらっしゃいました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

はなし家のかくし芸

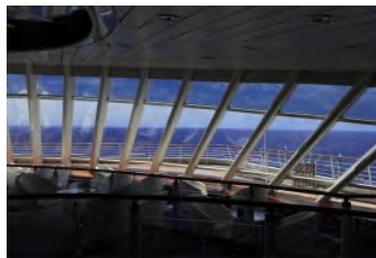
Date : 2016/01/03 緯度 : S 23度 49分 経度 : W 134度 24分 天気 : 晴れ 気温 : 27.5度 速度 : 13.4ノット
海域 : 南太平洋 寄港地 : 終日航海日



昨今の船内にいちばんの笑いをもたらしているのは、やはり三遊亭金八師匠、金原亭龍馬師匠のおふたりでしょう。年末の寄席はもちろんのこと、元日の朝には獅子舞までも演じてくれたし、今宵は『芸競飛鳥弐初春賑（げいくらべ飛鳥IIはつはるのにぎわい）～はなし家のかくし芸～』。まさに大活躍の毎日です。

今年最初の寄席となる「初席」は演題の通り、ふだんは見られない芸の寄せ集め。龍馬師匠の寄席文字実演、そして金八師匠のお座敷芸と、「アルコール片手に芸人をお座敷に呼んだような」寛いだ雰囲気最高でした。寄席文字はお客様にプレゼントされるとあってリクエストに手を挙げる方が続出。

客席からさまざまな持ち物を借りてアドリブでストーリーを組み立てる金八師匠の「お題ばなし」も面白かったですね。額いっぱい汗を滲ませ「もうタイヘンなんだからっ」と言いつつも、見事、道楽息子に意見するという筋書きですべての品物を使い切りました。拍手喝采の初笑い、今年も縁起がよさそうです。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

絶海の孤島ピトケアン

Date：2016/01/04 緯度：S 25度 11分 経度：W 128度 47分 天気：曇り 気温：24.5度 速度：16.3ノット
海域：- 寄港地：ピトケアン島



南米へ向かって南太平洋を真横に横断している飛鳥IIは今朝7時、絶海の孤島ピトケアンを間近に望むところまで来ました。タヒチ島とイースター島とのほぼ中間地点、日本でこれをご覧になっている方はぜひ世界地図で探して頂きたいくらい、南太平洋のど真ん中、本当に海しかない場所にぽつんとある小島です。

わずか56人の島民は「バウンティ号の反乱」で、はるかタヒチから1790年にたどり着いたイギリス系船員と一部のタヒチアンを先祖に持つとか。ポリネシアの小島ながらもイギリス領で、肌の白い人たちが暮らしています。きょうは彼らが船に来てプールサイドでマーケットを開く予定でしたが、天候不良でやむなく断念。

それでも大海の波をものともせず、小型ボートで飛鳥IIまで来てくれるあたり、さすがは船乗りたちの末裔です。沖合で贈り物の交換をして、東の間の出会いとなりました。お客様も皆さん声の届く7デッキから大きく大きく手を振って、そうそう体験できない貴重な機会を心から噛み締めているようでした。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

被写体いっぱいのクルーズライフ

Date：2016/01/05 緯度：S 25度 56分 経度：W 121度 17分 天気：晴れ 気温：27.0度 速度：15.7ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



ここ何日かの曇り空から一転して今朝は見上げる空もきれいな青色。プールは澄み切った南太平洋の水をたたえていて、パラソル席を片づけたせいでしょう、プールサイドがひときわ広々として見えました。そんな景色の変化に目が行くのは、もしかしたら当欄筆者が写真教室講師だからかもしれません。

6デッキのハリウッドシアターで行う洋上の写真教室は全10回。3回目のきょうは「上手に見える構図の基本」と題して、80人ほどのお客様にご参加頂きました。寄港地や船内イベントでの写真を例にとり、今まさに皆さんと一緒に体験しているこのクルーズを題材にして、リアルタイムでお教えできることが利点です。

自らのことを書くのは気が引けますが、右下が写真教室担当の高橋です。飛鳥IIの船尾にて10秒タイマーで自分撮り。無線フラッシュを手を持って自分で自分の照明係もやっている、ちょっとした遊び心の「作品」です。ともあれ次回第4回は皆さんの写真の講評回。どんな傑作が集まるのか、今からとても楽しみです。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

今航2度目のフォーマルナイト

Date：2016/01/06 緯度：S 26度 41分 経度：W 113度 56分 天気：晴れ 気温：26.0度 速度：13.4ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



今朝、珍しく目覚まし時計を早めにかけて夜明け前に起き出すと、朝焼けが窓外の大海原を真っ赤に染めていました。七色に変わるとも言われる海の景色はいつ見ても飽きることがありません。

さて、船旅の楽しみのひとつは「着飾ること」。ですが100日間に及ぶワールドクルーズは長丁場ゆえ、実際のドレスコードはカジュアルの日が多くを占めます。概ねひと月に3～4回のインフォーマル、1～2回のフォーマル、あとはカジュアルといった具合です。そしてきょうは、今航2度目のフォーマルナイトの晩でした。

アペリティフタイムのアスカプラザにはタキシードやドレス、そして新年らしく艶やかな和服に身を包んだお客様が集まって、夕食前のひとときを楽しんでいらっしゃいました。船上で出会ったお友達同士、あるいは講師やエンターテイナーと談笑する姿も方々に。まさにクルーズの魅力を凝縮したような場面です。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

絶海の孤島でモアイの謎に思いを馳せる

Date：2016/01/07 緯度：S 27度 9分 経度：W 109度 26分 天気：晴れ 気温：26.0度 速度：0ノット
海域：- 寄港地：イースター島



いつかは行きたい、けれどもそうそう機会はない。モアイ像で知られる絶海の孤島・イースター島は世界の数ある観光地の中でもまさにそうした場所でしょう。荒波打ち寄せの島だけにそもそも上陸自体も難しいのですが、島は飛鳥IIを歓迎してくれたようです。見事な青空のもと、入り江に錨を降ろすことができました。

文字通り「待望の」イースター島、今回はクルーズ特典の無料招待ツアーです。皆さんバスに分乗してモアイ像の二大スポット、モアイ像を彫って切り出した山腹ラノ・ララクと、海岸線に15体のモアイが並ぶアフ・トンガリキを見に行きました。間近で眺めるモアイ像に感慨もひとしお。ホント、大きかったですね。

平均的なものでも高さ3.5m、重さ20トンにもなるそうです。「誰が何のために作ったのかは未だに謎ですから、どなたの想像も正解の可能性があるんですよ」とガイドの方。さて、皆さんはこの巨大な石像の来歴にどんなストーリーを思い描いたのでしょうか。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

クルー&スタッフ撮影中です

Date：2016/01/08 緯度：S 28度 0分 経度：W 105度 34分 天気：晴れ 気温：25.0度 速度：13.2ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



この南極南米ワールドクルーズでは、思い出の船旅をまとめた一冊のアルバムを制作してご希望のお客様に販売する予定です。当欄筆者はそのためにも船上や寄港地でたくさんの写真を撮っていて、さらに一昨日からは飛鳥IIの各部署のクルーやスタッフたちの撮影も始めています。

きょうは陽射しが眩しいほどの快晴。午後はフード&ビバレッジ、つまり船内各所のレストランやバー・ラウンジなどで給仕を担当する80人以上のスタッフに船首に集まってもらいました。食事やお茶のたびに笑顔で迎えてくれる彼らはお客様にとって、ある意味、日々の船内でもっとも親しく接してくれる人たちかもしれません。

そしてインルームマッサージを担当するおふたりは船尾のデッキにて撮影。船にはいろいろな仕事を受け持つ人がいるのだなあとおつくづく思います。こうしたクルーやスタッフたちの頑張りのお陰で、航海は極めて順調です。気づけば横浜を出てきょうで31日目。楽しい旅はまだまだ続きます。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

「明るい」南米デッキディナー

Date：2016/01/09 緯度：S 29度 26分 経度：W 100度 2分 天気：晴れ 気温：22.0度 速度：13.1ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



今朝、デッキに出ると昨日までの暑さが一転していて、一瞬「そろそろ長袖でもいいかもな」と思うほどの涼しさを感じました。バルパライソに向け東へ航行中の飛鳥II、やはり少しずつ南極に近づいてきているのだという気がします。昼間はしっかり暑くなるものの、全般に涼しく過ごしやすい気温です。

今宵のメインイベントは「南米デッキディナー」。とはいえ外はご覧の通りの明るさです。いまの船内時間では日の出は7時53分、日没は夜9時36分。かくして日没前に行われることになったデッキディナーは、盛り上がりの意味でも「明るい」ディナーになりました。

クルーズスタッフやキャプテン、そして毎度熱演？の沖原チーフパーサーらが演じる愉快的出し物、そしてエンターテイナーとして乗船中の金亜軍さんによる揚琴の演奏、オペラ歌手の石上朋美さん・今井俊輔さんによる歌と盛りだくさん。食後には船尾からきれいな夕日も見られて、きょうも充実の一日となりました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

ロングクルーズならではの「教室のリレー」

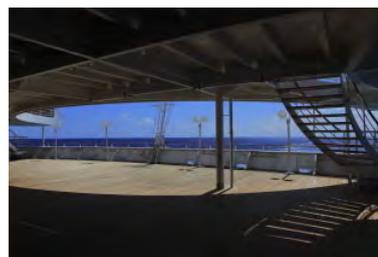
Date : 2016/01/10 緯度 : S 31度 4分 経度 : W 94度 35分 天気 : 曇り 気温 : 21.5度 速度 : 13.3ノット
海域 : 南太平洋 寄港地 : 終日航海日



100日間のロングクルーズともなると中には講師が途中交代する教室もあります。たとえば囲碁教室は3人の講師がリレー形式で教室を続けます。オークランド以降、マイケル・レッドモンド先生から交替してここまでを担当してきたのが写真左下、お客様を相手に指導碁を打っている桐本和夫先生（左端）です。

午前中には初級、午後には中級の教室があります。中級教室の冒頭では、先生曰く「昨晚思いついた初の試み」として、先生VSお客様全員でひとり1手ずつ、というユニークな対局もありました。ホワイトボードに掲げた盤面に注がれる目はどなたも真剣そのもの。いつも以上に背筋がピンと伸びていたのが印象的でした。

そして晩のドレスコードはインフォーマルで、ディナーはイタリアン。ショーはお客様の間でも人気の高い石上朋美さん・今井俊輔さんによるオペラコンサートです。艶やかな夜にふさわしい圧倒的かつ豊かな声量で、本場イタリアを想わせる素敵なオペラを堪能させてくれました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

かくし芸大会

Date : 2016/01/11 緯度 : S 32度 13分 経度 : W 88度 26分 天気 : 晴れ 気温 : 20.5度 速度 : 13.1ノット
海域 : 南太平洋 寄港地 : 終日航海日



東へ航行している飛鳥IIの船上では、朝日は船首の側からのぼります。薄曇りの今朝、デッキに出て前方を見渡すと、海面がきれいな銀色に輝いていました。

さて、きょう1月11日は、年明け以降こっそり練習を積み重ねてきたお客様の晴れ舞台「金ちゃんのかくし芸大賞」がある日です。特技や一芸を持つ15人のお客様が主役となってギャラクシー라운ジのステージに立つのです。まるでそれを祝福するような美しい海だなあと、当欄筆者は思いました。

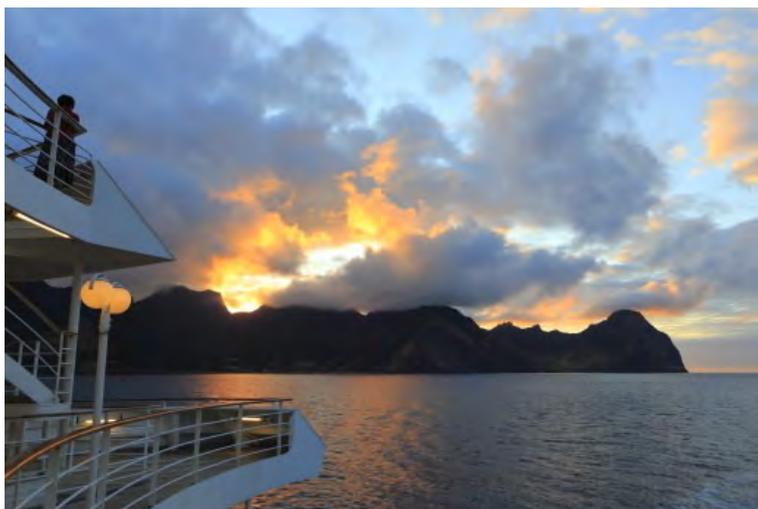
出し物は日本舞踊や歌謡曲、三味線の唄い弾き、マジック、さらには武術、バナナの叩き売り、リメイクした着物のファッションショーなど実に多種多様。熱唱中のステージに花束を差し出す方もいて、笑いと拍手、そして温かな声援に満ちた一幕でした。こんなアットホームな催しもまた、心安らぐものですね。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

ロビンソン・クルーソーの島を望む

Date : 2016/01/12 緯度 : S 33度 27分 経度 : W 81度 26分 天気 : 曇り 気温 : 19.0度 速度 : 12.0ノット
海域 : 南太平洋 寄港地 : 終日航海日



どうやら南太平洋は格別にロマンを誘うところのようで、絶海の孤島というフレーズを既に何度も使ってきました。ピトケアン島、イースター島、そして今宵20時頃に遭遇したロビンソン・クルーソー島も明らかにそのひとつに数えられるでしょう。かの物語『ロビンソン・クルーソー』のモデルとなった島だそうです。

どこも断崖絶壁で建物すら見当たらず、無人島かと思ったら、どこからともなく一艘の小型ボートが現れました。乗っていたのは4人の漁師。シイラと思しき大きな獲物を高々と差し上げて並走し、飛鳥IIのお客様に伝えてくれました。島民は猫の額ほどの小さな入り江で肩を寄せ合うように暮らしているようでした。

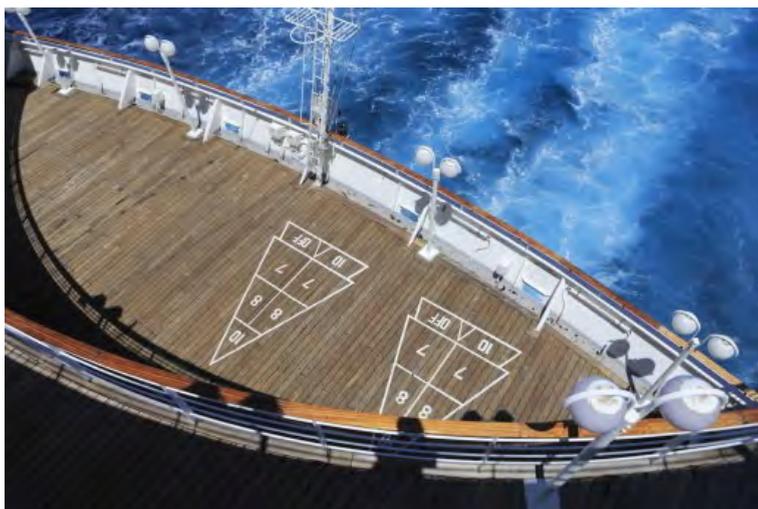
日中は土本美帆子先生のスロージョギング教室で、多くの方が涼しくなってきたデッキを気持ちよさそうに歩いていました。夜は怖〜い仮装に身を包んだクルーズスタッフが総出で行う「ロッキーホラーナイト」も開催。ロックスターたちの歴史を辿って踊る、賑やかで若々しいイベントとなりました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

南米大陸に向けて

Date : 2016/01/13 緯度 : S 33度 3分 経度 : W 75度 35分 天気 : 晴れ 気温 : 20.0度 速度 : 11.4ノット
海域 : 南太平洋 寄港地 : 終日航海日



日本を出てひと月少々、南太平洋の美しい島々を繋いで旅した飛鳥IIは、あと1日で南米大陸に到達します。明日のバルパライソでは一部の講師やクルーたちの交代もあるなど、このあたりが100日間のロングクルーズのひとつの節目でもあるわけです。

そんな中、きょうは俳句教室の総仕上げとなる「俳句発表会」が午後のハリウッドシアターでありました。千田百里先生、千田敬先生、藤代康明先生の3名体制で教えてくれる、手取り足取りの贅沢な教室です。船旅や初日の出、海の美しさや大戦に思いを馳せる句など、短冊に書かれた十七文字は各人各様。

揚琴奏者・金亜軍さんによる今航最後のショーも良かったですね。『荒城の月』『卒業写真』『戦場のメリークリスマス』など各時代の日本ゆかりの曲を筆頭に、お客様に好評だった『第三の男』も再び演奏してくれました。額に汗して演奏される懐かしくも澄み渡った揚琴の音色が、実に心地よく響いていました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

色彩とアートに溢れる港町

Date：2016/01/14 緯度：S 33度 2分 経度：W 71度 38分 天気：曇り 気温：21.5度 速度：-ノット
海域：- 寄港地：バルパライソ



ついに南米大陸に接岸した飛鳥II。大陸最初の寄港地はここ、チリのバルパライソです。スペイン語で「天国の谷」を意味する街には、幾重にも連なる丘にカラフルな建物が密集し、さらにはスプレーで描かれたアートが建物という建物にある、独特な雰囲気醸し出す世界遺産の港町です。

きょうの筆者は「サンチャゴとバルパライソ1日観光」に出掛けました。荒れ野を開墾したぶどう畑やトウモロコシ畑、オリーブ畑を横目に眺めつつバスで首都サンチャゴへ。宮殿や大聖堂を見たあとは再びバルパライソに戻り、20世紀のチリを代表する詩人パブロ・ネルーダの邸宅などを訪ねました。

赤、青、黄色に緑やピンク。思いつくすべての色を使ったかのような家々の壁は、ガイドさんによれば「かつて寄港する船のペンキを住民が無断拝借して塗っていた」のが始まりだとか。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

海が変わると

Date：2016/01/15 緯度：S 36度 11分 経度：W 73度 39分 天気：晴れ 気温：18.5度 速度：12.8ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



南米大陸に到達してから何となく思っていたのは「海が変わったな」ということでした。それまでの藍を流したような深い青色から、やや緑がかった色に変化したと感じます。海面に時折ちょこちょここと黒いアシカが顔を覗かざるばかりでなく、きょうは大きなイルカの群れが飛鳥IIのすぐそばに現れました。

「ただいま左舷前方にイルカの群れがご覧になれます」「右舷にもイルカの群れが……」。ブリッジからの立て続けの船内放送に、みな急いで7デッキや船尾のデッキに駆けつけます。昼過ぎには行き違う別の客船を遠望したり、きょうの窓外はとびきり賑やかでした。

さて、そんな海景を居ながらにして望む午後のリドカフェでは、コントラクトブリッジ入門クラスが開かれていました。ルールを覚えるまでがひと苦勞とはいえ、笑顔の優しい瀬戸口宣子先生のお陰でしょう、9卓38人ものお客様が集まって和気あいあい、ゲームに興じていらっしゃいました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

南米大陸の調べ

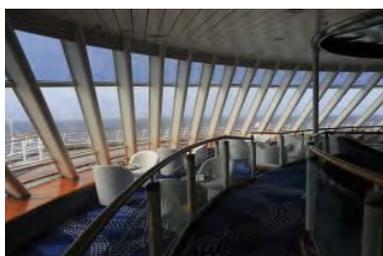
Date：2016/01/16 緯度：S 43度 16分 経度：W 75度 22分 天気：曇り 気温：15.5度 速度：11.9ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



バルパライソから新たに区間乗船のお客様も加わって、船内はいっそう華やかさを増しています。日中は渡辺副船長による「飛鳥IIの水の話」と題したスタッフキャプテントークがあったほか、船内のフィリピン人クルーとの会話が楽しくなるタガログ語教室（写真右下）などもありました。

夜はドレスコードがインフォーマル。着飾ったお客様が集うギャラクシーラウンジでのショーは、南米の楽器サンポーニャとケーナによる「瀬木貴将コンサート」。お馴染み『コンドルは飛んでゆく』から数々のオリジナル曲まで、大きな体から絞り出すように奏でる優しい音色に皆さん聞き惚れていました。

瀬木さんにとって南米はいわばホームグラウンド。冒険好きで、自身の作曲活動すらアマゾンの奥地などの秘境に出掛けて行うのだそう。心奪われる素敵なお響きのサンポーニャとケーナはもちろんのこと、幾多の旅のエピソードもぜひお聞きしてみたいものです。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

チリ南部、フィヨルドの奥深くへ

Date：2016/01/17 緯度：S 49度 58分 経度：W 75度 33分 天気：晴れ 気温：15.0度 速度：9.9ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



南へ下る飛鳥IIの左舷側にあたるチリ沿岸は、地図で見ると、昨日あたりから険しいフィヨルド地形になってきました。無数の島々とフィヨルドからなるこの「チリ氷河」、実に2000kmに渡って続く壮大なスケールなのだそうです。きょう昼頃にはその内海へと舵を切り、切り立つ絶壁を両舷に望むようになりました。

19時30分には一帯で最も大きな「ピオ11世氷河」の入り江に到着。幅4.5km、氷壁の高さ80mという大氷河を目前に錨を降ろし、今宵はここに停泊です。屋外デッキやビスタラウンジに集まったたくさんのお客様は、氷河の大きさと氷の碧さにどなたも興奮気味。感嘆の声が方々から聞こえてきました。

今回のクルーズ特典のひとつでもある赤いオリジナルパルカを羽織った方が多く、デッキ上は色合いも賑やか。陸路では決してたどり着けない大氷河を居ながらにして望めるのも船旅だからこそでしょう。さて、ちょっぴり冷えた手先を温めに、12デッキの展望大浴場「グランドスパ」に行こうかな。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

穏やかなフィヨルドの内海で

Date : 2016/01/18 緯度 : S 49度 56分 経度 : W 74度 24分 天気 : 曇り 気温 : 12.0度 速度 : 12.2ノット
海域 : 南太平洋 寄港地 : チリ氷河クルーズ



ピオ11世氷河の前で錨泊した飛鳥IIは今朝7時に錨を上げて転回しました。きょうも引き続きフィヨルドエリアの航行です。午前中はペンギンサウンドと呼ばれる入り江を脇に見つつ、さらに別の氷河を目指して舵を切りました。波のほとんどないフィヨルドの内海だけに船は滑るように進んでいます。

プールデッキには「クルーがテンドーボートで取ってきた」氷山のかけらが飾られ、クルーズスタッフがペンギンやアザラシの着ぐるみで登場。さらにはエンターテイナーとして乗船中の瀬木貴将さんもサンポーニャとケーナの演奏でそこへ飛び入り。何だかユニークな撮影スポットが出現していました。

曇りがちだった空も午後には回復し、アマリア氷河に到着した時には雲間からの陽射しがあったほど。11デッキ前方では皆さんこぞって記念撮影。夜10時という遅い日没を迎える頃、きれいな夕焼けが舳先の向こうを淡い茜色に染めていました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

グレーシャーカジノ

Date：2016/01/19 緯度：S 52度 15分 経度：W 75度 32分 天気：曇り 気温：10.0度 速度：13.4ノット
海域：南太平洋 寄港地：終日航海日



深夜3時にフィヨルドエリアから外洋へ出た飛鳥IIは、次なる寄港地プンタアレナスへ向かっています。午前中は南極観測船「しらせ」の艦長などを歴任した茂原清二先生の講演「南極に挑んだ日本船」があり、いよいよ本航のハイライトのひとつ、南極海域が近づいていることを実感しました。

そして午後3時には世界一周航路を拓いた探検家マゼランの名が冠されたマゼラン海峡へ。両舷の間近に岩ばかりの岸辺を望みながら、なかなか日の暮れない海峡を進んでゆきます。そんなまだ外が明るい中で催された今宵のイベントは、昨日おとといと目にした氷河にちなんだ「グレーシャーカジノ」。

レセプション前のアスカプラザが一夜限りのカジノに大変身。ディーラーに扮した飛鳥IIのオフィサーたちを相手に、お客様はそれぞれのゲームで大いに盛り上がっていました。夜10時、日没とほぼ時を同じくして飛鳥IIは幅およそ3kmという海峡の最狭部を通過しています。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

マゼラン海峡に臨むかつての要衝

Date：2016/01/20 緯度：S 53度 7分 経度：W 70度 52分 天気：快晴 気温：16.5度 速度：13.0ノット
海域：- 寄港地：プンタアレナス



飛鳥IIは今朝早く、チリ国内で最後の寄港地となるプンタアレナスに左舷づけで接岸しました。この港町は小さいながらも往時はマゼラン海峡の要衝として栄えたところ。16世紀にマゼランがこの海峡を発見してからは大型船がここを行き来して、町は大いに賑わったそうです。

1914年以降、太平洋と大西洋を繋ぐ役割をパナマ運河に譲り渡して、プンタアレナスは次第にもとの静かな港町へと戻っていきました。午前中のツアー「プンタアレナス半日観光」では、栄えた頃の機関車やクラシックカー、時計店や薬局等々が再現されたパタゴニア博物館などを見学し、その歴史に触れました。

早朝は気温も10度をゆうに下回る寒さだったものの、日中は陽射しが強くてコートも要らないほど。皆さん厚い上着を脱ぎ捨てて、カラフルなおもちゃ箱のような飛鳥IIの初寄港地を堪能されていたようです。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

最果ての都市ウシュアイア

Date : 2016/01/21 緯度 : S 54度 49分 経度 : W 68度 18分 天気 : 曇り 気温 : 10.5度 速度 : 17.7ノット
海域 : - 寄港地 : ウシュアイア



昨日プンタアレナスを出た飛鳥IIはマゼラン海峡からいったん大西洋へ出て、かのダーウィンが乗ったビーグル号に因んだ「ビーグル水道」を西進するかたちで、午後ウシュアイアに入港しました。さすがは南米の南の果てへの海路、歴史上の名優たちにまつわるエピソードにも事欠きません。

日中はこの海域を500年前に通過したマゼランの物語を中心に、月尾嘉男先生が「南米大陸南端を通過した英雄」と題して講演してくれました。東大名誉教授であり冒険家、自らもカヌーで南米の最南端とされるホーン岬を周回したというだけに、いっそうのリアリティをもって往時の厳しい航海に思いを馳せることができました。

さて、ウシュアイア港の桟橋に着くと、向かい側には南極に向かう小型客船がいくつか並んでいました。南極観光の拠点にふさわしく、メインストリートにはペンギンの置物を並べた土産店やアウトドア用品店が軒を連ねています。思った以上に先進的で華やかなこの港町に、きょうはオーバーナイトで停泊します。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

蒸気機関車「世界の果て号」に乗って

Date：2016/01/22 緯度：S 54度 49分 経度：W 68度 18分 天気：曇り 気温：12.5度 速度：-ノット
海域：- 寄港地：ウシュアイア



停泊2日目は橙がかった斜光が美しい晴れ渡った朝となりました。「晴れ時々雨」の予報通り、しばらくすると時折天気雨になってみたり、強い風に運ばれた雲がばらばらと小雨を降らせたり……。そんな変わりやすい天気も、ここが確かに最果ての地であることを実感させてくれます。

筆者は午前中は町を散策し、午後は「機関車で行くティエラ・デル・フエゴ国立公園」のツアーに参加しました。20世紀前半の当地は流刑地だったそうで、囚人たちの手で町や鉄道が造られたのだと聞きました。

かつて南フエゴ鉄道と呼ばれていた森の奥へと分け入ってゆく狭軌の蒸気機関車は、今では「世界の果て号」という観光列車になっています。マッチ箱のような客車のボックスシートに乗り込むと、南極ブナの森と山や川の美しい景色が車窓の向こうに流れてゆきました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

ドレーク海峡を渡って南極へ

Date：2016/01/23 緯度：S 56度 45分 経度：W 66度 43分 天気：曇り 気温：8度 速度：16.0ノット
海域：南極海 寄港地：終日航海日



昨晚ウシュアイアを出航した飛鳥IIはいよいよ南極大陸へ向けて舵を切りました。南米と南極との間に横たわるドレーク海峡を縦断します。この海峡は、海賊でありながらエリザベス女王の命で世界周航の旅に出たイギリス人船長、フランシス・ドレークの名に因んでいます。

南米大陸の先端に点在するいくつもの小島が途切れるところ、最後のひとつの島にあるのが最南端のホーン岬。そこには赤と白に塗り分けられた小さな灯台と小屋、そしてアルバトロス（アホウドリ）のモニュメントが建っています。飛鳥IIの船体で風をさえぎって水先案内人をボートに降ろしたら、いよいよドレーク海峡へと進みます。

外は曇りで海も空も灰色。けれどもホーン岬をひと目見ようと皆さん寒さにめげずデッキに出たり、普段通りに教室に参加したりと楽しんでいます。写真右下は近藤浩子先生と金子幸子先生による手芸教室。南極へ向かう船内でリリアンの「ビーズブレスレット作り」にいそしむ、ゆったりとしたひとときです。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

冰山浮かぶ南極へ

Date：2016/01/24 緯度：S 63度 12分 経度：W 61度 47分 天気：雪 気温：0.5度 速度：17.4ノット
海域：南極海 寄港地：南極海域



朝方にかけて小雪が舞い始め、日本の冬を待たずして夏の南半球に出掛けた私たちにも、今シーズン初めての冬らしい冬(?)がやってきました。窓外の雪まじりの濃い霧を見た客室係のジェーンさんが「ちっちゃな雪、スゴイですね。ペンギンもきっと寝てますね」なんて言っています。

サウスシェトランド諸島を抜けた頃には霧も晴れ、ついに飛鳥IIから南極大陸の一部、南極半島を望むことができました。大きな流氷が間近にやってくるたびにお客様は歓声をあげ、デッキに出て写真を撮ったりしています。流氷は白のなかに微かな碧を秘めた、美しい色をしています。

外気温はほぼ0度。けれども「意外に」と言うべきか、寒さは驚くほどではありません。皆さんひとしきり写真を撮ったあとは11デッキ前方のビスタラウンジやパームコートで暖かいコーヒーやお茶などを味わって、ゆったりと窓外に広がる南極の景色を楽しんでいらっしゃいました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

青空の下の南極クルーズ

Date：2016/01/25 緯度：S 64度 48分 経度：W 63度 10分 天気：晴れ 気温：6.0度 速度：7.5ノット
海域：南極海 寄港地：南極海域



午前4時には陽が昇る夏の南極。早朝に目覚めて窓外を見ると、海は見事なまでの凪でした。島々と半島に抱かれた内海は鏡のように静まり返り、雪に覆われた南極半島が上下逆さまになって穏やかな海面に映っていました。そうです、きょうは皆さんが心待ちにしていた快晴の南極なのです。

青と白の絶景のなか、船は半島沿いに南西へ。ノイマイヤー海峡を右手に分ち、絶景のパラダイス湾へと進みます。「ただいま右舷前方にペンギンの群れが泳ぐ姿がご覧になれます」「左舷前方ではクジラが潮を……」「氷山の上にアザラシが……」。きょうはブリッジからの船内放送もとびきり多忙。

赤のパルカ姿で午後のプールデッキに集まったお客様の前では瀬木貴将さんがサンポーニャとケーナを吹き、つのだ☆ひろさんがドラムを叩いてくれました。さらにはクルーズスタッフの愉快的出し物もあってまさに盛りだくさん、大満足の1日でした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

冰山と島々を望む南極クルーズ

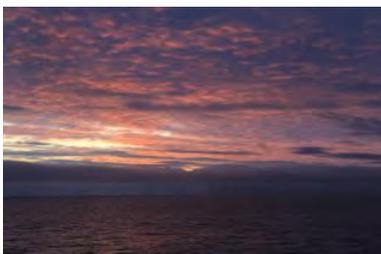
Date : 2016/01/26 緯度 : S 62度 26分 経度 : W 58度 52分 天気 : 曇り 気温 : 0.0度 速度 : 9.0ノット
海域 : 南極海 寄港地 : 南極海域



早朝4時、淡いピンク色の朝の光が一面の雲を染めていました。何人かのお客様から「真夜中の月明かりもキレイだったんだよ」と聞きました。きょうで南極クルーズも最終日。波間に漂う冰山もほどなく見納めになるでしょう。海鳥が別れを惜しむように、飛鳥IIと並んで飛んでいました。

ほぼ終日、左舷に見えていたのはサウスシェトランド諸島の島影です。幅1000mはあろうかという卓状の冰山も時折現れ、ゆっくりと後方に消えてゆきます。ローアクティビティーデーということもあり、11デッキのパームコートやリドガーデンなどの窓際席でのんびり語り合うお客様が多かったようですね。

晩のショーは皆さんお待ちかね、つのだ☆ひろさんのコンサート「ハイカラジャズ」。1905年の『林檎の木の下』から1964年のナット・キング・コールの『L・O・V・E』まで、思いがけず古くから日本で親しまれてきたジャズの名曲の数々を、日本語の歌詞でパワフルに歌ってくれました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

50日目の船内風景

Date : 2016/01/26 緯度 : S 56度 31分 経度 : W 57度 56分 天気 : 霧 気温 : 6.5度 速度 : 16.3ノット
海域 : 南大西洋 寄港地 : 終日航海日



毎朝8時50分にかかる増山キャプテンの船内放送で、クルーズ50日目を迎えたとなりました。無事にチリ氷河から南極クルーズにかけての区間を終えた今朝の放送は、航海士を始めとする甲板部、機関部、そしてすべてのクルーに対しても日本語と英語でねぎらいの言葉を添えていたのが印象的でした。

再び南米大陸へ向けて舵を切った飛鳥II。きょうはアルゼンチンにまつわる催しもありました。まずはお昼時にフォーシーズン・ダイニングルーム前で開かれるワインテーブル。明日のフォーマルのディナーにお勧めのアルゼンチンワイン4種が置かれ、熱心に質問をするお客様で賑わっていました。

そして午後にはタンゴ教室も。世界選手権ステージ部門での優勝経験もあるマヌエラとファンが教えるところであって会場は満員御礼です。時間を少しオーバーして実演してくれた「男性が女性を自然に導くところ」は溜め息が出るほどの美しさ。お客様の間から「きれいだったね～、来てよかった～」という声が聞こえてきました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

霧の中をゆく船で

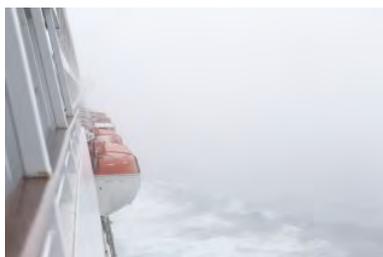
Date：2016/01/28 緯度：S 50度 32分 経度：W 56度 56分 天気：霧 気温：11度 速度：15.7ノット
海域：南大西洋 寄港地：終日航海日



航路図によれば夜半から早朝7時頃にかけて飛鳥IIはアルゼンチン沖にあるフォークランド諸島をかすめたはずですが、きょうの航行は写真左下に見る通り、終日霧の中でした。島影は見えずじまいだったとはいえ、朝から夕までずっと霧の中をゆく経験も、まるで雲の中にいるような浮遊感があって楽しいものです。

真っ白な外の景色とは対照的に船内は相変わらず賑やかです。昼時にアスカプラザで催されたのは飴細工のデモンストレーション。阿部竜馬シェフパティシエが温めた飴を手で伸ばし、ひねり、バーナーで熱を加えて接合してゆくと、あっという間に見事なバラの花や向かい合う白鳥などが出来上がってゆくのです。

見事な出来映えでお客様を感嘆させた飴細工は、夜にはフォーシーズン・ダイニングルーム前に飾られました。今夜のメインコース、西口雅浩総料理長が祖父の代から受け継ぐ名物「シャリアピンスターキ」とともに、しばらくぶりのフォーマルナイトに華を添えてくれました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

乗組員の操練

Date：2016/01/29 緯度：S 45度 55分 経度：W 55度 29分 天気：曇り 気温：17度 速度：14.2ノット
海域：南大西洋 寄港地：終日航海日



船内新聞『アスカデイリー』をふと見ると、朝10時から11時の間に「乗組員の操練」と記された太い帯がありました。お客様は特段何もしなくて大丈夫なうえ、今航でも既に何度もあったため、もはやどなたも気に留めていないかもしれません。が、船ではこうした非常訓練が定期的に行われています。

短音7回、長音1回の警報が鳴ったあと、ライフジャケットと橙色の帽子を身につけた乗組員たちが続々と船内各所の配置につきます。客室係もクルーズスタッフも、ショップやレセプション、機関部などの人たちも。遠くから見守っていると、防火ドアの開閉操作や救命ボートへの集合といった訓練をしていました。

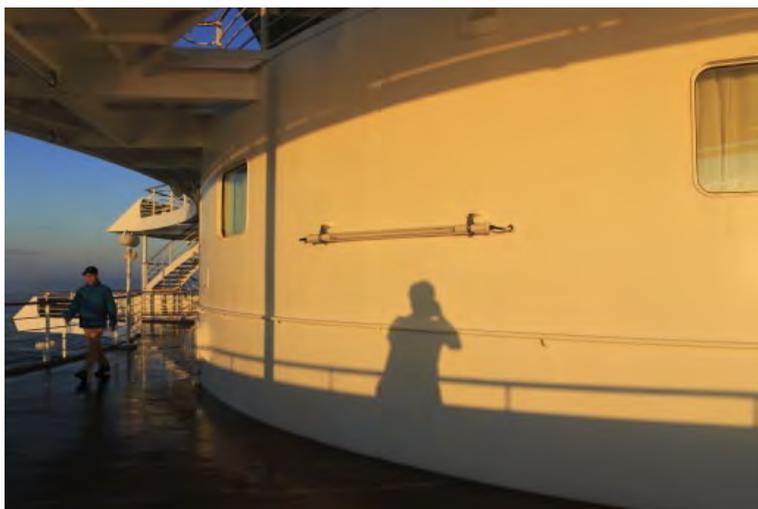
湿った空気が南極からの寒流で冷やされるため、明日くらいまでは霧の海に行くとのこと。そんな中でも変わらず優雅なクルーズライフを楽しむのは、やはり彼らの日々の努力があればこそ。お客様有志によるお茶会（写真左下）や晩のガウチョショー（右下）など、きょうも盛りだくさんの一日でした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

光と影の……

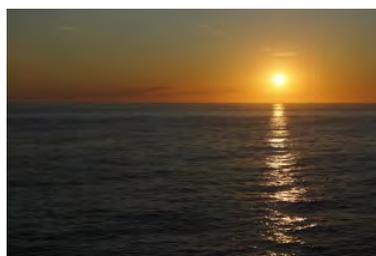
Date : 2016/01/30 緯度 : S 39度 12分 経度 : W 54度 3分 天気 : 霧 気温 : 19.0度 速度 : 14.5ノット
海域 : 南大西洋 寄港地 : 終日航海日



珍しく早朝に目覚めたのはカーテンの隙間から差す朝日のせいでした。慌てて着替えてデッキに出ると、既に何人もの方々が朝焼けの橙色に包まれて歩いていました。「きょうは久しぶりにキレイね」と話しかけてくださったお客様と一緒に、当欄筆者もしばらく朝日に見とれていました。

いくつか写真を撮った頃、今度はウォーキング中の男性のお客様が「光と影、ですか?」と。ご明察。わざわざ朝日に背を向けてカメラを構えた筆者の撮影意図に気づかれるとはさすがです。我が写真教室にお越しのお客様に違いありません。前回の教室で触れた「光と影の写真術」、覚えてくださったんですね。

お客様の流れにつられて6時30分からはクラブ2100でラジオ体操に参加。デッキも何周か歩いてみました。みんなで同じことをするって楽しいですね。飛鳥IIでの早起きは皆さんの交流の場でもあるようです。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

川面に沈む夕日

Date : 2016/01/31 緯度 : S 34度 59分 経度 : W 54度 25分 天気 : 曇り 気温 : 22.5度 速度 : 14.0ノット
海域 : 大西洋 寄港地 : 終日航海日



南極を後に一路北上してきた飛鳥IIはアルゼンチンとウルグアイの間を分かつラ・プラタ川河口を目指して、きょう日中はウルグアイ沖を航行していました。写真左下のダーツ教室や右下のNAOTOさんによるヴァイオリンコンサートなど、船内各所ではさまざまな催しがありました。

壮大なスケールのラ・プラタ川が大量の土砂を運ぶために河口からブエノスアイレスまでの間は非常に浅く、大型船の通れる場所は非常に限られます。風景は右も左も見渡す限り海のような広さだけれど、飛鳥IIが通れる水路はそこごく一部なのです。

明朝にかけ、狭い水路をブエノスアイレスまで延々240km遡るそうです。何隻もの貨物船やタンカーが列をなして進むなか、きょうは船首方向に沈む夕日が格別でした。ブリッジからの放送も入り、多くのお客様がデッキに出てラ・プラタ川の夕日を写真に収めていました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

タンゴとサッカーの国、アルゼンチン

Date : 2016/02/01 緯度 : S 34度 35分 経度 : W 58度 22分 天気 : 晴れ 気温 : 22.0度 速度 : 11.5ノット
海域 : - 寄港地 : ブエノスアイレス



目覚めると飛鳥IIは泥濁りの大河を航行していました。船尾方向からの眩しい朝日を浴びつつタグボートに導かれ、予定通りの午前7時にアルゼンチンの首都・ブエノスアイレスに着岸しました。茶色い川の岸边には豊かな緑があり、その向こうには銀色に輝くビル群が。久しぶりの大都会です。

きょうの筆者は「ブエノスアイレス半日観光」に参加しました。南米のパリとの異名をもつだけに中心部には石造りの立派な欧風建築が連なっていて、確かにここは西洋文化の国だと分かります。街ではスペイン語が話され、人々はスペイン系やイタリア系が9割以上を占めるとか。

カラフルな建物が人気のボカ地区（写真上、左下）は、かの有名なサッカー選手マラドーナが在籍したチームの本拠地でもあります。ツアー終了後には寄港地ガイドの方に教えてもらった1858年創業の老舗、カフェ・トルトーニ（右下）も訪ねてみました。ご覧の通りゴージャスで素敵なお店でした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

クルーズ船が集結する河畔の港町

Date : 2016/02/02 緯度 : S 34度 54分 経度 : W 56度 13分 天気 : 晴れ 気温 : 24.5度 速度 : 10.9ノット
海域 : - 寄港地 : モンテビデオ



ブエノスアイレスを昨夜11時50分に出航した飛鳥IIは、夜のうちにラ・プラタ川を川下へ戻るかたちで航行しました。写真上は朝8時50分ごろに出合ったイタリアの客船MSCリリカ(5万9058t)。増山キャプテン曰く「水路の幅は最も狭い所で150m程度」だそうで、間近でのすれ違いは壮観です。

午後3時にはウルグアイのモンテビデオ港に着きました。するとすぐさま別の大型客船が飛鳥IIに続いて舳先を接するのではと思うほどの近さに着岸。目前には旧市街の洋風建築があり、いくつかの尖塔がそびえています。右手に軍港、泥濁りの港の沖合にはうち捨てられた沈船の群れ……。何だか不思議な眺めです。

多くの方がウルグアイという国の姿を想像できないかもしれません。その首都モンテビデオは、古い石造りの洋風建築と近代的なビル群が入り交じる立派な都市でした。旧市街にはカラフルに塗り分けられた土産店やレストランも連なり、世界各国からの船客を楽しませているようです。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

モンテビデオ半日観光

Date : 2016/02/03 緯度 : S 34度 54分 経度 : W 56度 16分 天気 : 晴れ 気温 : 28.0度 速度 : -ノット
海域 : - 寄港地 : モンテビデオ



オーバーナイトの停泊で2日目を迎えた今朝、筆者は「モンテビデオ半日観光」にご一緒してみました。植民地時代の建物が並ぶ旧市街は緩やかな馬の背状の岬になっていて、栈橋発のツアーバスでその旧市街を抜けてゆくと、先には茶色いラ・プラタ川を眼前に望む浜辺がいくつか連なっていました。

ガイドさんによればラ・プラタ川は狭いところで幅45km、広いところで250km。実際「水平線の彼方に対岸が見えるかどうか」という程度ですから、まるで海だと思える広さです。ここ、河畔の首都モンテビデオには国の人口の約半分、300万人が暮らしていると聞きました。

ツアーではサッカーワールドカップ第一回大会が催されたセンテナリオ競技場、壮麗な国会議事堂、賑やかな農産物市場（写真上）、サルボ宮殿の塔を見上げる独立広場（右下）などを見学しました。夕方5時20分、同時刻出航の他の客船と時間を調整しつつ出航。飛鳥IIを含めた3隻が相次いで出る様子も壮観でした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

エレクトリック・ナイト

Date : 2016/01/04 緯度 : S 33度 28分 経度 : W 51度 24分 天気 : 曇り 気温 : 24.0度 速度 : 15.8ノット
海域 : 大西洋 寄港地 : 終日航海日



昨日モンテビデオを発った飛鳥IIは、次なる国ブラジルを目指して大西洋に出ています。今回ブラジルはサントス、リオデジャネイロ、サルバドールの3港に寄るスケジュール。午前中はフリージャーナリストの日下野良武先生（写真左下）による講演「ブラジル概要と現況」もありました。

そしてインフォーマルの今夜のショーは、待望のバンドメンバーがモンテビデオから乗船してますます楽しい「つのだ☆ひろ コンサート」です。ここまでのクルーズではどちらかというとアコースティックのショーが多かったですし、そういう意味でも久しぶりの「エレクトリックな夜」だと言えるでしょう。

今宵のつのださんは『Soul Man』『Twistin' The Night Away』など英語の曲ばかりをセレクトし、ドラムも叩いて歌も歌って大活躍。さらにアンコールは多くの方が期待していたあの名曲『メリー・ジェーン』を歌ってくれました。爽快かつ元気な気分になれる、力のこもったステージでした。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

ステンシル教室

Date：2016/02/05 緯度：S 27度 53分 経度：W 47度 8分 天気：晴れ 気温：27.5度 速度：17.0ノット
海域：大西洋 寄港地：終日航海日



終日航海日のきょう、筆者は午後のコンパスルームで開かれたステンシル教室を覗いてみました。教えてくれるのは手芸を担当する金子幸子先生（写真上、中央）と近藤浩子先生。あらかじめ型抜きされた版を使って、かすれる程度に絵の具をつけた小さな刷毛で、ぼんぼんと叩いて布地に着色します。

今回はハンカチにイルカやヒトデ、ホタテ貝などのモチーフを描きました。最初こそ要領を掴みかねていた方もいたようですが、何度かやるとすぐさま上達。「濃さは絵の具の量ではなく叩く回数で調節」「輪郭を濃く、内側は薄めに」。金子先生のアドバイスも的確です。

じつを言うと当欄筆者も少しだけチャレンジさせて頂きました。一見単純そうに見えつつも微妙なトーンやグラデーションを追い求めることに奥深さがあり、やるほどに楽しさが増してきます。大西洋の陽光が差し込む船上でこんな作業に没頭する時間もまた、贅沢なひとときではないでしょうか。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

日本人ゆかりのサントス港

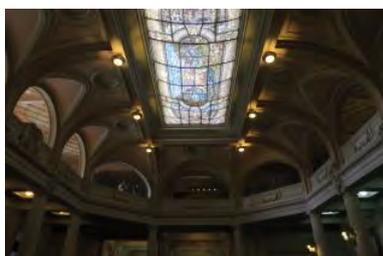
Date：2016/01/06 緯度：S 23度 58分 経度：W 46度 18分 天気：曇り 気温：31.0度 速度：13.0ノット
海域：- 寄港地：サントス



飛鳥IIは今朝早くブラジルのサントス港に着岸しました。客室テレビの航路図で確認する限りでも他に4隻の客船が入港していて、リオのカーニバルを目指す各国の船が続々とブラジル近海に集結している様子を感じられます。そしてここサントスは、1908年に日本人移民が笠戸丸で初めて到着した歴史的な街でもあります。

さて、きょうの筆者は「サントス半日観光」に参加しました。ケーブルカーで急斜面を上ってモンチ・セハーの丘から街を一望し、日系移民ブラジル上陸記念碑の前で集合写真を撮影。ステンドグラスの天窓を備えた豪華な石造り洋風建築の旧コーヒー取引所（写真左下）も訪れました。

旧コーヒー取引所はミュージアムカフェも併設。お客様は船上で事前予約しておいたお土産のコーヒー豆を受け取ったり、本場のコーヒーを焼き菓子とともに味わったり。世界最大のコーヒー輸出港でもあるサントスでの観光を思い思いに楽しんでいらっしゃいました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

大迫力のカーニバル

Date：2016/02/07 緯度：S 22度 54分 経度：W 43度 11分 天気：晴れ 気温：29度 速度：-ノット
海域：- 寄港地：リオデジャネイロ



昨日サントスを発った飛鳥IIは夕の黄昏に包まれるなか、ボサノヴァの名曲『イパネマの娘』でもその名を知られるイパネマビーチや丘上のキリスト像を遠望しつつ湾内をゆっくりと進み、リオデジャネイロ港に着きました。聞けば、きょうここに集まったクルーズ船は11隻。合計約1万8000人もの船客が降り立つとか。

目当てはもちろん今夜のカーニバル本選です。飛鳥IIのお客様は全員がクルーズ特典の招待ツアー。昨日のサントス在住ガイドの方まで「えっ？ 皆さんは本選のチケットが取れているんですか！」とびっくりしていたほど入手困難なもので、しかも観覧場所は審査員席が間近という絶好のポジション。

会場の熱気、地響きのように鳴り響くサンバのリズム、さまざまなテーマをもったきらびやかな衣装や山車、そして1チーム約3000人というパレードの壮大さ……。何をとっても凄かったですね。「すごいね〜」「来てよかったねえ」という感嘆の声が方々から聞こえてきました。ホントに楽しくて、興奮覚めやらぬ夜でした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

快晴のコルコバードの丘

Date : 2016/02/08 緯度 : S 22度 54分 経度 : W 43度 11分 天気 : 晴れ 気温 : 29.5度 速度 : -ノット
海域 : - 寄港地 : リオデジャネイロ



深夜2時まで観戦していたカーニバルの興奮から未だ覚めやらぬなか、筆者は今朝8時から「コルコバードの丘観光」のツアーに参加しました。リオに来たなら上らなきゃ！と思う気持ちはどうやら万国共通で、あらゆる国の観光客がこぞって登山電車に乗るべく山麓駅に列をなしていました。

実を言うと寄港地ツアーの利点のひとつは、こうした有名観光地のチケットが事前予約できていること。一般の観光客の方の中にはかなり待たされた人もいたと後で聞きましたが、飛鳥IIのツアーで訪れた皆さんは割合すんなり乗れたようでよかったです。

さて、窓を開け放った古風な赤い電車に揺られて急傾斜の森を上り、山頂駅からはさらに階段やエレベーターなどで頂上へ。見上げる青空には両手を広げたキリスト像、見下ろせば屹立する丘と海とのパノラマが……。展望台はキリストのポーズを真似て記念撮影する人や自分撮りに専念する人たちで賑わっていました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

ウクレレ教室とフラ教室

Date：2016/02/09 緯度：S 22度 43分 経度：W 39度 54分 天気：晴れ 気温：28.5度 速度：13.8ノット
海域：大西洋 寄港地：終日航海日



深夜に今航初の1時間「後退」の時刻改正があったので、今朝は普段にも増してのんびりとした目覚めになりました。1日が25時間になって得した気分です。これまでに合計13時間分にもなった「前進」の貯金を、今後はこうして少しずつ返してもらおうことになるわけです。

デッキに出て真っ青な空と海を見た時、筆者の脳裏に浮かんだのは何故だかハワイのリゾートでした。飛鳥IIがハワイに着くのはしばらく先ですしここはまだ大西洋ですが、きっと気温や湿度がそうさせたのでしょうか。いや、もしかすると船内でウクレレやフラの教室が熱気を帯びているからかもしれません。

というわけで、きょうの写真は午後で開催された標記2教室。ウクレレ教室では瀬木貴将さんとクラブ・アンディーノの皆さんも飛び入り参加して大盛り上がり（写真左下）。フラ教室（右下）にも多くのお客様が集まっていて、穏やかな波のようにゆったりと踊りを楽しんでいらっしゃいました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

船上のカーニバル

Date：2016/02/10 緯度：S 17度 13分 経度：W 38度 6分 天気：晴れ 気温：29.0度 速度：14.2ノット
海域：大西洋 寄港地：終日航海日



リオデジャネイロでカーニバル本選を満喫してきた私たち。あの興奮を再びとでも言うべきか、今夜は飛鳥IIのデッキ上でも「カーニバルナイト」というイベントが催されました。実は少し前から有志のお客様たちが赤、青、黄色、緑の4チームに分かれて練習を始めていたようです。

今朝はその最後の練習ということで船内各所でチームごとに総仕上げ（写真右下）。クルーズスタッフの先導で振り付けや隊列の確認をしていました。面白いのは他チームの様子は本番まで互いに一切知らないこと。加えてエンターテイナーや講師までも急遽の出場が決まって、夕方のプールサイドで密かに練習（左下）。

真っ赤な夕日が大西洋に沈んだ頃、いよいよ本番が始まりました。サンバのリズムにのって各チームが順に踊りながら歩きます。ブラジルカラーの緑チームや艶やかなダンスの赤チームなど、どのチームも本場に負けない笑顔と迫力。全員参加で作る船上イベントの楽しさに改めて気づいた夜でもありました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

南米大陸の歴史が滲む丘上の旧市街

Date：2016/02/11 緯度：S 12度 58分 経度：W 38度 31分 天気：晴れ 気温：30.0度 速度：13.5ノット
海域：- 寄港地：サルバドール



今朝8時、飛鳥IIはブラジル最後の寄港地サルバドールに入港しました。空は快晴、日差しはじりじりと焼けるように暑く、再び赤道近くに戻ってきたと実感します。きょうの筆者は、ポルトガル植民地時代に総督府が置かれ約200年に渡ってブラジルの首都だったサルバドールの半日観光ツアーに参加しました。

街は港付近の下町と台地上にある上町とに分かれ、3つのケーブルカーと1つのエレベーターで繋がっています。上町の旧市街には各時代のコロニアル建築がまるでパッチワークのように混ざり合っていて建っていました。イギリス風の邸宅、ポルトガル風の商店建築、そしていくつもの立派な教会など……。

1750年に完成したサン・フランシスコ教会は内部の装飾に1トン近くの金を用いた壮麗な教会。石畳のペロウリーニョ広場はかつてアフリカから連れてこられた多くの奴隷が売買された場所。数多の歴史が凝縮された古都はいま、色彩あふれる観光地として全国各地の観光客で賑わっていました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

プリザーブドフラワー教室

Date：2016/02/12 緯度：S 9度 40分 経度：W 35度 11分 天気：晴れ 気温：28.5度 速度：17.4ノット
海域：大西洋 寄港地：終日航海日



昨夕サルバドールを後にした飛鳥IIは再び大西洋を北上しています。次の寄港地ポート・オブ・スペインまでは中6日の航海。そんなゆったりとした気持ちで何かに熱中できる船上の時間にふさわしい教室が、きょうお邪魔した荻原小百合先生のプリザーブドフラワー教室です。

プリザーブドフラワーとは生花の水分を特殊な液体に置き換えたもので、いわば「咲き続けるお花」。造花と違って本物の花に由来するため、自然そのものの繊細な美しさをも備えています。きょうはバレンタインアレンジメントをテーマに、ローズやカーネーション、かすみ草などをハート形の台に飾ります。

今回は色調の強い赤のローズを主役にしつつ、いかに上手にアレンジするかがポイントのよう。苦戦しつつも皆さんとても楽しそう。「愛のハートが飛んで行くようなイメージで」と先生が言えば、すかさず「そんなお相手いませ〜ん！」という冗談が返ってきたり、和気あいあい、笑いの絶えない教室でした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

密かな人気のカジュアルトーク

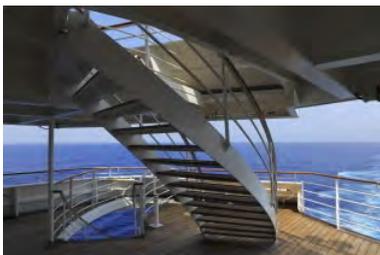
Date : 2016/02/13 緯度 : S 3度 34分 経度 : W 37度 28分 天気 : 晴れ 気温 : 29.5度 速度 : 19.1ノット
海域 : 大西洋 寄港地 : 終日航海日



乗船客のみぞ知る飛鳥IIのヒミツ。そんな魅力は多々ありますが、もしもロングクルーズの後半あたりの夜に6デッキ「クラブ・スターズ」で密やかに催されるカジュアルトークを挙げる方がいたならば、相当に飛鳥ツウなお客様だと言えるでしょう。

で、今夜、今航67日目にしてついにそのカジュアルトーク「今夜はモグラナイト」が開催されました（写真上）。普段はほとんどお客様の前に出ることのない通称“モグラ乗組員”を招いて話を聞くこの企画、記念すべき第一回目のゲストは物資の補給を一手に担うプロビジョンマスター・岩下善司さんです。

巨大な冷蔵庫9室・冷凍庫5室の計14室と、消耗品やユニフォームの倉庫は2デッキに。節分の豆は「どうしても日本文化を大切にしたい」という思いで急遽日本から空輸。そんな話に加えて、本来ナイショの裏事情までぼろっと話してしまったり……。期待に違わぬ爆笑トークショー、非番のクルーもこっそり覗きに来るほどの面白さでした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

バレンタイン ディスコ

Date : 2016/02/14 緯度 : S 0度 24分 経度 : W 43度 48分 天気 : 晴れ 気温 : 29.0度 速度 : 18.7ノット
海域 : 大西洋 寄港地 : 終日航海日



今朝9時20分頃に飛鳥IIは赤道を越え、12月16日以来およそ2か月ぶりの北半球に戻ってきました。暦を見るときょうはバレンタインデーですね。船上でもそれにちなんだイベントがちゃんと用意されていました。晩にクラブ2100で「バレンタイン・ディスコタイム」が開催されると船内新聞に載っています。

午後には練習時間も設けられ、クルーズスタッフたちを先生に4曲の振り付けを教わりました。曲はいずれも70年代以降、最近までのバレンタインにまつわる歌謡曲。ふだんのダンスに比べてもテンポの速さはかなりのもの。思わず「息切れしそう」と笑いながらも、皆さん無理せず楽しく覚えられたようです。

そして夜9時40分からの本番はご覧の通りのポップな雰囲気。練習時プラス2曲の合計6曲をエネルギッシュに踊りきりました。男性のお客様はディナーの前にクルーズスタッフの女性たちからチョコレートを受け取ったりもしましたし、どなたにとってもバレンタインデーらしい一日になったことと思います。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

癒やしの音色とリズムの夜

Date : 2016/02/15 緯度 : S 3度 42分 経度 : W 49度 5分 天気 : 晴れ 気温 : 29.0度 速度 : 15.5ノット
海域 : 大西洋 寄港地 : 終日航海日



南米大陸をぐるりと回って北上してきた飛鳥IIの船上では、エンターテイナーも続々と新たなメンバーが乗船しています。きょうはそんな中でも癒やしの音色とリズムが素晴らしいコンサートがありました。

ひとつは夕のギャラクシーラウンジ、「天国の音色！ スティールパンコンサート」。ドラム缶から作られた打楽器が奏でる浮遊感のある音は、碧い海に囲まれたカリブの島々を想わせます。奏者は原田芳宏、レイ・ホールマンのふたり。キラキラ輝くスティールパンは次なる寄港地でもあるトリニダード・トバゴが故郷の楽器です。

また夜9時30分から11デッキ・パームコートで行われた「朱鷺たたら ラウンジコンサートwithようそろ」は、対極的な和の響き。篠笛の伸びやかな旋律と和太鼓デュオの情熱的なリズムが素敵でした。地球の「あちら」と「こちら」から来た癒やしとリズムのコンサートがひと晩に2つ。実に贅沢な夜でした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

楽しさいろいろのフォーマルの日

Date : 2016/02/16 緯度 : S 6度 41分 経度 : W 53度 52分 天気 : 晴れ 気温 : 29.0度 速度 : 14.0ノット
海域 : 大西洋 寄港地 : 終日航海日



穏やかにも賑やかにも、思い思いに過ごせる飛鳥IIのクルーズライフ。きょうはそんな魅力を改めて感じました。昼過ぎにまず覗いたのは小川クルーズディレクターによる歌の教室「歌声広場」。開始直後は6デッキ後尾のクラブ2100でやっていたのですが、「きょうはウクレレ教室とのコラボレーションです」とのこと。

で、15分後にはぞろぞろとハリウッドシアターに移動してウクレレ教室と合流（写真左下）。『みかんの花咲く丘』『ダイアナ』などをウクレレのゆったりとした伴奏にのせて歌いました。後に発表会をすることもあり、皆さんの熱心さも格別です。

久しぶりのフォーマルナイトだけに夜も華やか。過日ギャラクシーラウンジで喝采を浴びたバランスアクトのドノバン&レベッカのおふたりが、きょうは皆さんの目前で演じてくれました（写真上）。鍛え上げた肉体からくる美しいパフォーマンスにアスカプラザは大賑わい。盛りだくさんで楽しい一日となりました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

快晴の船上オリンピック

Date：2016/02/17 緯度：N 9度 33分 経度：W 58度 30分 天気：晴れ 気温：29.5度 速度：13.0ノット
海域：大西洋 寄港地：終日航海日



きょうも各種教室や講演が船内新聞『アスカデイリー』のスケジュールを埋めていますが、そんな中でも特に印象的な催しは「飛鳥II 船上オリンピック」でした。お客様がチームごとに分かれて競う運動会で、午前中は船内各所でミニゲーム、午後はプールサイドで賑やかに対抗戦です。

真っ青な空の下、皆で大玉送りや玉入れなどを楽しみました。他にも、いまはレセプションやショップなど他の部署で働くけれども「もともと茶目っ気たっぷりのクルーズスタッフだった」というクルーたちを交えてのスタッフ競走（写真上）などもあり、オリンピックは大盛り上がり。

それにしても暑かったですね。そして汗をかいたあとの冷たい麦茶の美味しかったこと。せっかく広い飛鳥IIのプールサイドですから、時にはこんなイベントも楽しいものだと思います。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

スティーロパン工場見学

Date：2016/02/18 緯度：N 10度 39分 経度：W 61度 31分 天気：晴れ 気温：31.0度 速度：12.4ノット
海域：- 寄港地：ポートオブスペイン



今朝8時、飛鳥IIはトリニダード・トバゴの首都、ポートオブスペインに入港しました。この国の発祥で世界的に有名なのが「スティーロパン」と呼ばれるドラム缶に凹みをつけて作った打楽器です。カリブを象徴する、まるで自分がクラゲになったかのような浮遊感のある音色は、誰しも耳にしたことがあるはずです。

きょうの筆者はその打楽器の故郷を訪ねる「スティーロパン工場見学」に参加しました。アフリカ系やインド系などさまざまな人が暮らす島のやや内陸、のんびりした住宅地の一角にその工場がありました。ドラム缶の蓋の部分を押いて、くぼみをつけて、調律して……の繰り返し。地道な作業で作られます。

バス4台を連ねたこのツアー、実は乗船中のエンターテイナーのつのだ☆ひろさんも参加していました。日本を代表するドラマーが魅惑の打楽器を前にして黙っているはずもなく、突如、青空の下で工場の人たちとのミニ・セッションに……。お客様はもちろん大喝采。予想外で最高のおまけもついた、驚きの工場見学なのでした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

和の楽しみをふたつ

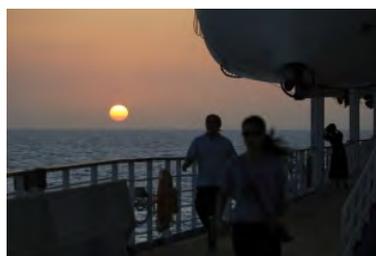
Date : 2016/02/19 緯度 : N 11度 29分 経度 : W 65度 4分 天気 : 晴れ 気温 : 27.0度 速度 : 12.7ノット
海域 : 大西洋 寄港地 : 終日航海日



日本を離れて久しい、数えてみれば横浜を出て73日目となる我々ですが、もちろん日本の魅力だって忘れてはいません。きょうはそんな「和の楽しみ」を教えてくれる催しがふたつありました。ひとつは14時からの山口晃さん（写真左下）の講演「私見 日本の古い絵」。

名著『ヘンな日本美術史』で知られる山口さん、雪舟の絵や鳥獣人物戯画を題材にして「写真と違って感じたものが大きく映るのが心のスクリーンであり、日本の絵画はそれを表現している」ということなどを、面白おかしく解説してくれました。ホワイトボードを駆使して次々描く絵もまた、個性的で楽しかったです。

また夜のショーは珍しい古典奇術「江戸手妻」（写真上）。一度は途絶えた手妻を研究して復活、発展させてきた藤山新太郎さんのステージには薩摩琵琶の音色も加わって、優美さや緊張感をも感じられる奇術でした。話術のほうも実に巧みで、会場はたくさんの笑いにも包まれていました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

パステルカラーの小さな街で

Date：2016/02/20 緯度：N 12度 6分 経度：W 68度 56分 天気：晴れ 気温：29.0度 速度：12.3ノット
海域：- 寄港地：キュラソー



カリブ海に浮かぶオランダ領キュラソーの栈橋に今朝8時、飛鳥IIは左舷づけで接岸しました。植民地時代に端を発する17～18世紀にかけての街並みはどこか本国のアムステルダムなどを彷彿させつつも、破風がくんにゃりと曲線を描く独特の「キュラソー・バロック」様式の建物も存在します。

歩いて回れる世界遺産の小さな港町。きょうはそんな街なのでツアーの催行もナシ。お客様全員が自由に散策できる一日です。船を通すために可動する浮き橋「クイーン・エマ橋」を歩いて渡り、古い建物が並ぶプンダ地区でお買い物をしたり、市場を覗いてみたり、橋を望むカフェでお茶してみたり。

お客様はもちろん、講師やエンターテイナーもクルーたちも……。ちょっと歩くと飛鳥IIの誰かに出会います。「あら、こんなところで」なんてお互い笑いつつ、カメラのシャッターボタンを押してあげたり。異国の島でのそんな気ままな自由行動は楽しくて、なかなか素敵な体験でした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

副船長のよもやま話

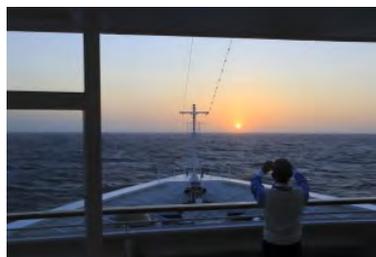
Date : 2016/02/21 緯度 : N 12度 12分 経度 : W 72度 53分 天気 : 晴れ 気温 : 25.0度 速度 : 12.8ノット
海域 : 大西洋 寄港地 : 終日航海日



100日間に渡るロングクルーズでは、時にはクルーが登壇する講演も催されます。きょうは副船長による、飛鳥IIの造水の話に続く2度目の講演「パナマ運河よもやま話」が朝10時からのギャラクシーラウンジでありました。

通峡を明後日23日に控えて会場にはたくさんのお客様が集まっていました。当欄筆者は3度目のパナマ運河となりますが、それでも知らないことだらけ。日差しが強い運河をおよそ10時間かけて通るため、「ブリッジウイングには庇を掛けること」というルールもあるそうです。

ここ最近の南米北部を回り込んでゆくカリブ海クルーズは天候もよく、きょうも真っ青な空やきれいな夕日が楽しめました。運河や大陸を回る航路の話聞くにつけ、地球の大きさや船旅の壮大さがいっそう実感をもって分かります。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

世界遺産の旧市街を歩く

Date：2016/02/22 緯度：N 10度 24分 経度：W 75度 32分 天気：晴れ 気温：29.5度 速度：12.8ノット
海域：- 寄港地：カルタヘナ



飛鳥IIは今朝早く、半島に連なるビル群を左舷に望みながらカルタヘナの港に着きました。カルタヘナはユニークな街で、新市街は弓なりに伸びる細長い半島に近代的なビル群がずらりと並んでいる一方、旧市街は16世紀以来の古風でカラフルな街並みが、堅固な城壁や要塞に守られて今に残っています。

きょうの筆者は「カルタヘナ半日観光」のツアーに同行しました。屹立するポパの丘の頂上に佇む教会から街を一望し、また旧市街ではバスを降りて45分ほど、ガイドさんの先導でゆったりと街を歩きました。ここはかつて数多の財宝をガレオン船でスペインへと運び出した場所で、奴隷貿易の中心地でもありました。

時計門、馬車広場、税関広場などを巡ってツアーの仕上げはラス・ボベダスへ（写真上）。横穴のような部屋が延々と連なる、往時の武器庫が土産店になった見どころです。アクセサリーや服、名産のコーヒー豆などを売っていて、どなたも思い思いにお買い物を楽しんでいたようです。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

大西洋から太平洋へ

Date : 2016/02/23 緯度 : N 9度 11分 経度 : W 79度 51分 天気 : 晴れ 気温 : 29.0度 速度 : 1.6ノット
海域 : 大西洋 寄港地 : 終日航海日



きょうは本航後半のハイライトのひとつ、パナマ運河通峡の日です。大西洋の入り江で水先案内人を迎え入れたあと、8時45分頃に最初の閘門「ガツンロック」へと船を進めました（写真上）。パナマ運河は合計3か所のこうした閘門を利用して、海拔26mの湖を経るかたちで大西洋と太平洋を結んでいます。

スエズ運河は単なる切り通しですが、こちらのパナマ運河には閘門があり、船の上下が見ものです。鉄製の扉が閉じて水がたまり、次なる高みに進んでゆく。その繰り返しで5万トンを超える客船がみるみるうちに上がってゆきます。世界の物流の要衝でもあり、実に興味深い社会科見学です。

飛鳥IIは左右合計6台の銀色の電気機関車からの綱を取り、これで船体を運河の中央に維持しています。船の右も左も、船首も船尾も見どころいっぱい。珍しい光景をそうして1日楽しんで、すっかり日が落ちた午後7時過ぎ、アメリカ橋をくぐった飛鳥IIはついに再び太平洋へと戻ってきました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

コロンビアの白いバラ

Date : 2016/02/24 緯度 : N 7度 19分 経度 : W 82度 25分 天気 : 曇り時々雨 気温 : 31.0度
速度 : 15.1ノット

海域 : 太平洋 寄港地 : 終日航海日

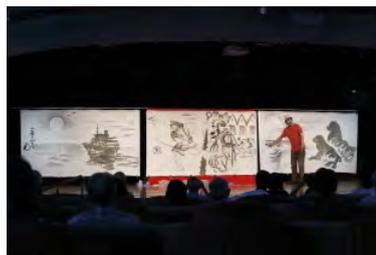


パナマ運河を後にして太平洋を北西へと向かう終日航海日。きょうの筆者は船内各所の催しを順々に覗いて行きました。お邪魔したのは沖谷邦先生のコントラクトブリッジ教室（写真左下）、山口晃画伯の「お絵描き道場」（右下）、そして荻原小百合先生のプリザーブドフラワー染色加工教室（上）。

プリザーブドフラワー染色加工教室の会場に大量にあった白いバラは、昨日の寄港地カルタヘナで仕入れたものだそうです。「まずは花の大きさや形を見ながら好みの1本を選びましょう」と先生。選んだ花はすぐ下あたりで茎を切り、ジャム瓶ほどのサイズの容器に専用液を浸して密封します。

きょうを含めた全4回の教室で、数年以上はもつという「枯れないお花」、プリザーブドフラワーが出来上がるとのこと。世界第二の花の輸出国でもあるコロンビア。その寄港地で本場の生花を手に入れて自分だけのプリザーブドフラワーにするなんて、クルーズならではの贅沢だとは思いませんか？

※お花は、在日コロンビア大使館(PROCOLOMBIA)ご協力のもと、コロンビアの農園Funza farmsよりご提供いただきました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

マングローブ林で野生動物に出会う

Date : 2016/02/25 緯度 : N 9度 58分 経度 : W 84度 50分 天気 : 晴れ 気温 : 33.0度 速度 : 13.6ノット
海域 : - 寄港地 : プンタレス



飛鳥IIは今朝早く、ニコヤ湾に突き出した砂州の町プンタレナスの栈橋に接岸しました。「砂の岬」を意味するその名に違わず、延々5km以上も黒砂の砂州が続くところです。近年はパナマ運河に近い寄港地として客船界にも注目されていて、ここからバスでコスタリカの豊かな自然を見に行くツアーが人気です。

きょうの筆者はそんな中から「マングローブ林ボート遊覧」を選んでみました。ボートに乗るとすぐに鷺やツバメの一種が見つかり、野生生物の宝庫だと気づきます。オウムやアメリカワニの子供なども現れて、ガイドさんが指さすたびに「あ！あそこにいる！」「ほんとだ」「きれい！」とお客様の間から声が上がります。

半日観光だったので午後は港の付近も散策しました。いかにも南国らしいのんびりとした雰囲気、2階建て程度の低い建物が大半。市場や石造りの教会を見学し、浜辺の露店でお土産を。沖へ一直線に伸びる長い長い栈橋を、船客用のチューチュートレインに揺られて飛鳥IIへと戻りました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

飛鳥II、10周年のデッキディナー

Date：2016/02/26 緯度：N 11度 29分 経度：W 89度 43分 天気：晴れ 気温：28.0度 速度：18.6ノット
海域：太平洋 寄港地：終日航海日



きょう2月26日は飛鳥II就航10周年の記念日です。「初代飛鳥の和の心を受け継いで、より大きなスケールで」という想いを抱いて船出した飛鳥IIはたくさんのお客様に支えられ、日本はもとより世界の海へと航海を続けてきました。そして今この瞬間もメキシコ沖の太平洋を順調に、楽しくクルーズしています。

さて、当欄筆者は午前中、倉橋潤子先生・倉橋智太郎先生のおふたりによる「メタルビーズ教室」を覗いてみました。およそ1世紀前にフランスで生まれ、日本で蘇ったという気品あるビーズで作るアクセサリー。キラキラ輝く華やかなブローチなどが1時間ほどで作れるとあって、皆さんとても満足されているようでした。

そして今宵はデッキディナー。就航10周年を祝ってプールサイドにはケーキを模したオブジェも登場。メキシコを代表するテノール歌手マウロ・カルデロンさんらによる歌、皆で踊るダンスなど、飛鳥IIの魅力が詰まった記念日のデッキディナーは太平洋に沈む夕日にも祝福されているようでした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

本日のコンパスルーム

Date : 2016/02/27 緯度 : N 14度 27分 経度 : W 95度 51分 天気 : くもり 気温 : 23.0度
速度 : 16.7ノット

海域 : 太平洋 寄港地 : 終日航海日



飛鳥IIの6デッキ左舷後方にある「コンパスルーム」。このフォトエッセイにもしばしば登場する淡いグリーンの壁をした一室は、各種教室に使われる場所としてお客様にもお馴染みです。きょうは午前中にそこで催されていた2つの教室にお邪魔してみました。

まずは囲碁教室の初級（写真右下）。先生はリレー形式でバトンを受け取った今航3人目の囲碁講師、伊藤庸二先生です。スーツ姿に控えめな笑顔、パシッと開いた白い扇。「いまお教えした『打って返し』、実戦でできると気持ちいいですね。餌を与えておいて取るという……」。解説も平易で皆さん楽しそう。

続く時間は金子幸子先生のステンシル教室の補講（上、左下）。マイペースでやってこそその手作業ですから、こうした時間は嬉しいですね。教材のハンカチやストールをめいめい持ち込んで仕上げていました。少人数で和気あいあい。陽光に包まれたきょうのコンパスルームは、優しさあふれる飛鳥IIを象徴しているようでした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

圧巻のダイビングショー

Date : 2016/02/28 緯度 : N 15度 51分 経度 : W 99度 54分 天気 : 快晴 気温 : 27.5度 速度 : 15.1ノット
海域 : - 寄港地 : アカプルコ



飛鳥IIは今朝8時にメキシコのアカプルコに入港しました。ターミナルは、小高い丘に築かれたサンディエゴ要塞とは道路を挟んだ真向かいです。岸に向かって正面に要塞、右手に新市街を擁する長い長いオルノスビーチ、左手に小さな公園と教会を中心とする旧市街、という便利なロケーションにありました。

きょうの筆者は午前中はのんびりと旧市街を散策しました。教会や浜辺や飛鳥IIの写真を撮って、地元の人気店と思しき行列のできる食堂を見つけてコロナビール片手に美味しいタコスを食べました。午後は「アカプルコ半日観光」に参加、ツアーの目玉は当地名物だという「死のダイビングショー」(写真上)。

ショーはその名の通り、屈強な男たちが断崖絶壁から海に飛び込むスリリングなもの。祠にお祈りをしてから大きく両手を挙げて観客にアピールし、頃合いを見計らって空中へ……。見事ダイブが決まって拍手喝采。そんな肝を冷やされるショーのあと、かつて当地を訪れたという支倉常長の像や高台の展望台を訪れました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

和やかな船上の七宝焼教室

Date：2016/02/29 緯度：N 16度 40分 経度：W 105度 53分 天気：快晴 気温：27.0度
速度：18.3ノット

海域：太平洋 寄港地：終日航海日



昨夕にアカプルコを出航した飛鳥IIは西へ進路を取り、中7日の航海でハワイのオアフ島を目指しています。しばらく終日航海日が続きますが、こういう時こそ普段できない新しい物事に腰を据えて挑戦できるもの。そうした意味でも注目したいのは、全6回、きょうで4回目を迎える透胎七宝(とうたいしっぽう)の教室でしょう。

教えてくれるのは東京藝術大学の前田恭兵先生（写真上、右側）。七宝とは金属板にガラス粉をのせて焼成する技法で、繊細かつ気品ある仕上がり的魅力です。とはいえガラスは焼くと収縮する素材。仕上がりを想像しつつ施釉と焼成を三度も繰り返す、なかなか手の込んだ作業になります。

きょうは最後の施釉・焼成なのでお客様の作品（写真右下）もだいぶ完成形に近づきました。出来上がりが見えるとワクワクするものですね。ほのぼのとした前田先生のキャラクター、そしてアシスタントで奥様の友香さんのサポートもあってのことでしょう、船上でもとりわけ穏やかで和やかな教室風景に見えました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

晴天の太平洋上で

Date : 2016/03/01 緯度 : N 17度 12分 経度 : W 113度 38分 天気 : 快晴 気温 : 24度 速度 : 18.0ノット
海域 : 太平洋 寄港地 : 終日航海日



このところ晴天続きで毎日、海も空も真っ青です。夕方にはブリッジの当直航海士から「きれいな夕日をご覧になれます」という放送が入り、カメラ片手におもむろに7デッキ屋外に出たりしています。きのうは太陽が沈む瞬間に一瞬緑色に光るグリーンフラッシュも見えたようですね。

盛りだくさんの船内イベントからきょうは何を選ぼうかと迷いましたが、まず着目したのは「カジノKING決定戦」(写真左下)。カジノには馴染みのお客様がたくさんいて、きょうこそまさに腕の見せどころ。テーブルゲームやスロットマシンなど、皆さん「これだ」と思うゲームで自慢の腕を競っていました。

晩には古今亭志ん彌師匠の落語『幾代餅』をギャラクシーラウンジで。搗き米屋の奉公人で無類の堅物・清蔵が当代一の美女に恋をする、という物語。江戸落語の真骨頂ともいふべき物語と師匠の語り口にはお客様も思わず引き込まれていたようで、上演時間の45分もあっという間に過ぎました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

先生たちのステージ

Date : 2016/03/02 緯度 : N 17度 30分 経度 : W 121度 17分 天気 : くもり 気温 : 24.0度
速度 : 18.2ノット

海域 : 太平洋 寄港地 : 終日航海日



南極南米クルーズも残す寄港地はホノルルひとつ。船内新聞『アスカデイリー』の中には今航の総仕上げを想わせるイベントも散見できるようになってきました。午後のパームコートで催された「門真帆ピアノタイム」(写真右下)や夕のギャラクシーラウンジの「山下昌美ダンスショー THE ENKA」(上)などがそれ。

普段は教室講師をしている先生が演者として本領を発揮する姿を見てつくづく思うのは、当たり前のことですが、「やはりプロは違う」ということです。流れるように心地よいピアノの響き。個性的でキラのあるダンスショー。お客様の親しみのこもった拍手に思わず心も温まります。

また、変わったところでは、きょうはフォーシーズン・ダイニングルームを会場にした「和菓子料理教室」(左下)も開催されました。亀屋万年堂の田中亜由美さんが桜餅の作り方を実演。明日はダイニングルーム前で和菓子作りのデモンストレーションもあるということで、筆者も今から楽しみにしています。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

ウィンブルドンコート

Date : 2016/03/03 緯度 : N 17度 46分 経度 : W 128度 59分 天気 : くもり 気温 : 23.5度
速度 : 18.4ノット

海域 : 太平洋 寄港地 : 終日航海日



きょうは当欄にあまり登場していない船内施設をひとつ紹介したいと思います。写真上のウィンブルドンコートは12デッキ、飛鳥IIを空から俯瞰して言うところ「プールデッキの後方でファンネル（煙突）の前あたり」にあります。潮風を感じる屋外コートでパドルテニスを楽しめます。

花曇りといった感じのきょうの空模様は南洋上といえども涼やかで、まさに運動日和と言えるでしょう。11時からの「パドルテニスの時間」にはお馴染みの“テニス仲間”のお客様が10人ほど集まっていました。クルーズスタッフ曰く「いつもこんな感じで、和気あいあいと楽しんでいらっしゃるんですよ」。

ちなみにきょうは3月3日。ひな人形を脇目に夕のダイニングルームに入ると、ディナーは豪華な和食でした。海鼠共和えや山菜胡桃和えといった前菜に始まって蛤の潮汁、真鯛の焼き霜松皮造りなどと続き、仕上げは和菓子職人による練り切りも。日本の春の訪れに想いを馳せつつ美味しく味わうことができました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

定番教室の風景

Date：2016/03/04 緯度：N 18度 2分 経度：W 136度 52分 天気：晴れ 気温：23.0度 速度：18.1ノット
海域：太平洋 寄港地：終日航海日



きょうも数多のイベントや教室が船内各所で催されていて、たとえばフライングディスク大会やペタンクタイム、囲碁教室、歌声広場、○×クイズ、体に効く体操、ゴルフレッスン、社交ダンス等々と、これは結局横浜に帰り着くまでにすべてを紹介することはできないだろうなあ、と思えるほどです。

さて、そんな中でも、ここでは飛鳥IIのロングクルーズでお馴染みのベテラン先生による教室風景をふたつご紹介してみましょ。ひとつは写真左下のコントラクト・ブリッジ教室で、教えているのは本航3人目のブリッジ講師・坂本弥生先生。ピリリと辛口のコメントがお客様の笑いを誘うのも、もはや見慣れた光景です。

それから詩の朗読教室は元アナウンサーの堤江実先生のご担当（右下）。シックな内装のマリナーズクラブが似合う定番教室です。「ご自分が思った感情の通りに読むのが、詩は最もよく読めます」というアドバイスに従って、皆さんひとりずつ、ゆったりとした調子で一編の詩を声に出して読んでいました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

クルー&スタッフたちの練習風景

Date：2016/03/05 緯度：N 18度 59分 経度：W 144度 11分 天気：晴れ 気温：24.0度
速度：18.1ノット

海域：太平洋 寄港地：終日航海日



当欄筆者がいつも「すごいなあ」と思うことのひとつは、船で働くクルーやスタッフのマルチな才能です。自身の部署の仕事のみならず、さまざまなイベントや出し物にも登場してお客様に楽しんでもらう。仮装や踊りも当たり前、何でもできなければ船の仕事は務まらない……。そんな風にも思えるほどです。

だからでしょうか、きょう12時からギャラクシーラウンジでひっそりとやっていた今晚のダンスパーティーに向けた練習にも、白の制服を着たパーサーやモノトーンのショップクラークから作業着姿のクルーまでもが集まって、熱心に、なおかつ和気あいあいとした雰囲気の中で、練習に励んでいました（写真上、左下）。

そして今宵のショーは演芸会。古今亭志ん彌師匠は演目をあみだくじで決めると言いきなり普段着姿で舞台に登場。「着替えはこれから」だそうで、何だかこちらも舞台裏を覗かせてもらった気分。ストレート松浦さんは緩～いトークに絡めて繰り出すジャグリングが実に面白かったです（写真右下）。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

ハワイアンデッキディナー

Date：2016/03/06 緯度：N 20度 19分 経度：W 151度 52分 天気：晴れ 気温：25.5度
速度：17.8ノット

海域：太平洋 寄港地：終日航海日



アカプルコを発って7日目、いよいよ最後の寄港地ホノルルが明日に迫ってきました。そんなきょうのメインイベントは「ハワイアンデッキディナー」。今航最後のデッキディナーでもあり、皆さんいつにも増して期待されているようでした。開始時間の午後6時を前に、多くのお客様がプールデッキの入口に集まっていました。

ハワイ風のアロハシャツ、和の情緒で浴衣姿、そして中にはユニークな仮装で参加する方も……。クルーズスタッフが色鮮やかなレイをお客様に配ってくれて、デッキの上は気分もすっかりハワイです。ビールやスパークリングワインなどで乾杯すると、ほどなく夕日が空を茜色に染めてゆきました。

フィリピンバンド「ナマナ」の演奏、フラ教室&ウクレレ教室の皆さんによる踊りと演奏なども素敵でした。お客様はたくさん笑って、たくさん踊っていました。「デッキディナーはやっぱり飛鳥IIのクルーズには欠かせない」。皆さんの嬉しそうな笑顔を前に、当欄筆者は改めてそんなことを考えました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

ダイヤモンドヘッドを望むアプローチ

Date：2016/03/07 緯度：S 21度 19分 経度：W 157度 52分 天気：晴れ 気温：28.0度 速度：6.7ノット
海域：- 寄港地：ホノルル



きょう午前中はフラ&ウクレレ教室の卒業発表会がありました。フラ教室の皆さんは華やかに着飾って、優雅な踊りを披露してくれました。また、これまでに21回も開催されたというウクレレ教室の方々は難しい弾き方もマスターして、存分に成果を出せたようです（写真下2点）。

飛鳥IIはついに最後の寄港地ホノルルへと近づきました。モロカイ島を左手に望んで航行し、島の北を通り過ぎて左に舵を切ると今度は右舷側にオアフ島が見えてきます。有名なダイヤモンドヘッドの沖合を回り込むと、その先には白砂のワイキキビーチとリゾートホテル群が（写真上）。

「ついにできてきたねえ……」。ここまでの90日間を振り返りつつの言葉でしょう。お客様の間からはそんな感慨のこもった声も聞こえます。予定を少し早めた午後1時、飛鳥IIはアロハタワー脇の棧橋に右舷づけで接岸しました。お客様は街に出て、思い思いにホノルルを楽しんでいらっしゃるようです。

※明日以降のフォトエッセイは写真を飛鳥IIフォトショップスタッフ、文章をアスカクラブ会長で元キャプテンの幡野保裕さんが担当します。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

ホノルル停泊

Date：2016/03/08 緯度：N 21度 19分 経度：W 157度 52分 天気：くもり 気温：26.0度 速度：0ノット
海域：- 寄港地：ホノルル



本日からホノルル～横浜間のフォト・エッセイを担当することになりました幡野です。
長期クルーズの最終区間はお客様も乗組員も色々交錯する思いがあって、最も盛り上がる区間です。その雰囲気を残さずお伝えしたいと緊張しています。

さて、今日はクルーズ最後の寄港地ホノルルの一日になり、出港が午後5時の予定ですのでダイヤモンド・ヘッドの登頂体験、真珠湾観光、オアフ島セスナ機遊覧飛行等さまざまなオプションツアーが催行されます。私は早朝発のダイヤモンド・ヘッド登頂ツアーに同行しました。参加者は28名、それぞれが健脚自慢です。

本船発6時、火口内の山道入口まではバスで約30分、火口内から急な坂道と階段で1.3Km 高低差は約200m有ります。山頂からはココ・ヘッドからワイアナまでオアフ島の南西海岸線が展望できます。勿論ワイキキ・ビーチもホノルル市内も眼下に広がります。絶景を楽しみ、登り降りする多くの人々と挨拶を交わす早朝登山は爽快でした。さすがは健脚自慢の皆さま一人の落伍者も無く、平均値の1.5～2時間で完歩しました。お腹もすっかり減ったところで、予約のなかなか取れないホテルのレストランで朝食、美味しいボリューム満点のエッグ・ベネディクトで大満足でした。

今夜のギャラクシーラウンジは津軽三味線のデュオ 輝&輝（K i K i）のコンサートです。それぞれが日本一に輝いた津軽三味線奏者武田佳泉さんと白藤ひかりさんにピアノ伴奏者伊藤辰哉さんが奏でる曲は、日本の伝統的民謡からロック調のオリジナル曲まで幅広く、春の海、てるてる（虹をイメージしたオリジナル曲）と続き、最後はじょんがら曲弾きと熱気に包まれたショータイムでした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

ホノルル 出港

Date : 2016/03/09 緯度 : N 21度 13分 経度 : W 157度 57分 天気 : 晴れ 気温 : 22.5度 速度 : 8.6ノット
海域 : 太平洋 寄港地 : 終日航海日



米国コーストガードの検査が終了し、スケジュールより18時間遅れで、日付が変わって3月9日11時出港になりましたが、ハワイらしいぴかぴか出港日和になりました。

青い空、青い海、香り風・・・と鼻歌が飛び出しそうです。大勢のお客様がデッキにでられて出港シーンを楽しまれていました。ホノルル港の歴史を見続けて来たアロハ・タワーに別れを告げます。

嬉しいことに港関門に近い客船バースNo.2岸壁には、かの名客船、ハパグ・ロイドのオイローパが着岸しています。多くの方々がその優美な姿を楽しんでおられました。船体の優雅さでは飛鳥Ⅱに分があるように見えるのは私のひいき目でしょうか。

今夜のギャラクシーラウンジはソプラノシンガー柴田智子さんのコンサートです。

ニューヨークジュリアード音楽院で学び、オペラのタイトルロールを歌い、ニューヨーク・タイムズなどで高い評価を受けておられます。ピアノ伴奏は内門卓也さんです。

遅れを取り戻すために全速力で航行しているため、足元がぐらぐらすることから、昔初めて船で歌った時の緊張感を思い出したと話されていました。

幕開けはオペラ、モーツァルト「フィガロの結婚」より”恋の悩みを知る君は”、続いての曲はニューヨークの魅力を語った後、ガーシュインのアイ・ガット・リズムで腕振りのリズム体操を行ない、お客様も大いに盛り上がるコンサートとなりました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

終日航海日

Date : 2016/03/10 緯度 : N 22度 11分 経度 : W 165度 43分 天気 : 晴れ 気温 : 22.0度

速度 : 17.5ノット

海域 : 太平洋 寄港地 : 終日航海日



横浜に向けた終日航海が始まりました。波浪は少し収まって来て、風も東北東と追手に回り、船速も上がっています。船内は今日もスポーツ系、カルチャー系と色々なイベントが盛りだくさんです。

11時ビスタラウンジでホノルルからご乗船のお客様46名様をご招待してウェルカム・パーティーが開催されました。洋上だけの9日間、ワールド・クルーズの最終区間にご乗船頂いたお客様を、船長以下シニアオフィサーが総出で歓迎です。

お昼にはアスカプラザで太平洋鮪の解体ショー。やや小ぶりの40kgですが、ホノルルに水揚げされたものを仕入れたそうです。ギャレーのスタッフが鮮やかな手さばきでおろします。お客様は大拍手、前列のお客様はつまみ食いをご期待のようでしたが、今夜のディナーまでお預けでした。

14時からはシアターで堤江実先生の詩の朗読教室の発表会、元アナウンサーで詩人の先生は飛鳥Ⅱではお馴染みです。教室を代表して有志の皆さま18名様、各自が選んだ好きな詩を朗読しました。短期間でこんなに周りに感動を与える朗読が出来てしまうのかと驚きです。涙を浮かべて聞いている方もいらっしゃいました。

美しい日本語、滑舌の良さなど、練習しなければならない事も多いのですが、一番大切な事は素直に詩を理解し、自分の呼吸のリズムで朗読する事だそうです。そうすればそれぞれの人生経験に裏付けされた味が出るのだそうです。

詩は祈りと先生は話されます。折しも今日は日本の3月11日。全国で追悼の式典がおこなわれていることでしょう。シアターに満ち満ちている人の優しさが遠く離れた洋上からの慰霊になるのではと感じました。

夜のギャラクシーはチェリストの斎藤静さんを中心とした弦楽四重奏”ルーテシア”の演奏会。クラシックから映画音楽、童謡まで幅広い演奏です。アンコールに応じて”憧れのハワイ航路”が演奏され、楽しい時間でした。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

終日航海日

Date : 2016/03/11 緯度 : N 24度 9分 経度 : W 173度 47分 天気 : 晴れ 気温 : 22.0度 速度 : 18.4ノット
海域 : 太平洋 寄港地 : 終日航海日



海は益々静かになりました。日本は冬に逆戻りの寒さのようですが、飛鳥Ⅱのプールサイドはまだまだ夏です。日光浴を楽しむ方、スイミングされている方がいらっしゃいます。

午後の皮切りは、パームコートでの200泊・300泊・400泊を達成されたお客様の泊数達成パーティーがあり、お客様はシニア・オフィサー達とお祝いをしました。船長の挨拶と機関長の乾杯で始まります。船は船舶【1000泊】を目指して、今後ご乗船お願い申し上げます。

14時からは、ハリウッドシアターで堤江実先生のトークショーが、江頭クルーズコーディネーターの司会で開催されました。堤先生は、ジャーナリスト堤未果さん、イラストライター堤大介さんのお母様です。飛鳥Ⅱでは詩の朗読でお馴染み堤先生の母としての教えを学びました。

夜のギャラクシーラウンジは、飛鳥Ⅱが誇るプロダクションショー「リズム・オブ・ライフ」。世界中を舞台に、生きる喜びを様々な形で歌いあげリズムを伝える、躍動感あふれるステージでした。今クルーズ中にプロダクション・キャストの半分5名が交替し、新チームが練習の成果を発揮しました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

終日航海日

Date：2016/03/13 緯度：N 26度 2分 経度：E 178度 18分 天気：晴れ 気温：22.5度 速度：18.6ノット
海域：太平洋 寄港地：終日航海日



昨夜23時ミッドウェーの南方約195マイルを通過。飛鳥には縁のある環礁です。私が船長を務めていた1999年と2001年に寄港しました。戦後、この環礁に寄港した客船は飛鳥だけで、今は環境保護のため、接航することも許されない島となってしまいました。

今朝6時49分に日付変更線を通過し東経に入ったので、12日がスキップして日本と同じ日付になりました。

本日は終日「和」をテーマにしたイベントが盛りだくさんです。盆踊り教室、昔遊びの時間、（コマ、けん玉、お手玉、折り紙、紙相撲）、百人一首の会、プールサイドでは縁日があり、皆さま童心に帰って楽しめました。

パームコートでは優雅な午後の日本茶の時間です。美味しい和菓子に日本茶でほっと寛がれています。ビスタラウンジは優雅にお客様主催の茶会も開かれていました。和菓子職人は亀屋万年堂の田中亜由美さん。女性らしい可愛い和菓子にお客様は大喜びでした。

夜のギャラクシーラウンジでは津軽三味線のデュオの輝&輝+ピアノのコンサート。民謡からクラシック、ポピュラーまで、新しいアレンジで若い音楽家の可能性を感じさせるステージでした。

締めはパームコートで昭和歌謡ナイトです。昭和にタイムスリップして懐かしい曲をクルーズ・スタッフとお客様で歌い上げます。突然登場した飛鳥伝説の〇〇〇〇姉妹、爆笑の渦が起こります。最後は皆で尾崎紀世彦さんの「また逢う日まで」の大合唱になりました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

終日航海日

Date : 2016/03/14 緯度 : N 27度 56分 経度 : E 170度 19分 天気 : 晴れ 気温 : 22.5度 速度 : 18.4ノット
海域 : 太平洋 寄港地 : 終日航海日



天候は下り坂、雲りがちのお天気で午後には気圧の谷を横切ることになりそうです。少し風も強く南に回りました。

今日はホワイトデー。午後のティータイムはそれを意識して、ホワイトデー・ティータイム。マシュマロのチョコレート・フォンデュやケーキが並びました。またディナー時のダイニング入口では男性プロダクション・キャストを中心に、女性のお客様にキャンディがプレゼントされました。

午前中はギャラクシーラウンジで同好会発表会。「太極拳同好会」と、「歌って元気な同好会」が、練習の成果を披露しました。総勢60名様を越える同好会で見事なパフォーマンスです。

午後のシアターでは小川クルーズディレクターによる講演「タイタニックの真実（なぞ）」で満員のお客様です。彼自身が研究したタイタニックにまつわるなぞが解き明かされます。何故、氷山の情報が沢山有りながら事故が起きたのか？事故当時、周りに多くの船がいながら救助が間に合わなかったのか？語り継がなければならない真実についての興味深い講演でした・・・短い時間では語り足らず、講演は第二章が有りそうです、聞きたい方はまた是非ご乗船下さい。タイタニックの話は船上ではタブーと気にしていましたが、そんな事は有りません。この事故を契機に船の安全・救命設備が大きく進歩しました。また飛鳥の以前のワールドクルーズでヨーロッパからニューヨークに向かう航海で事故海域を通過し、長音3声で追悼の意を顕し、タイタニックメニューをダイニングでサービスさせて頂いた事も有りました。

ギャラクシーでの今夜のショータイムはジャズバンド『キャトル バンド』の演奏です。ジャズサックスの鬼才、林栄一さんをフューチャーしたスーパーコンボバンド。ピアノはリーダーの富田一夫さん、ギターはジョージさん、ベースは東保光さん、ドラムは上村計一郎さん、それにスペシャルゲストとしてチェロの斎藤静さんが加わりました。

個性豊かなメンバーがスタンダードからオリジナル曲まで粋でムーディーな演奏でお客様を魅了しました。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

終日航海日

Date：2016/03/15 緯度：N 29度 53分 経度：E 161度 53分 天気：晴れ 気温：21.0度 速度：18.3ノット
海域：太平洋 寄港地：終日航海日



お天気は回復し、曇りがちなが時々、雲の隙間から日が射しています。午後には青空も期待できるでしょう。風はまた後ろに回り、横浜へと船を押してくれています。

横浜までは今日を入れても終日航海日は後3日。テレビの10チャンネルでは横浜港での入国手続き、通関手続き、検疫などの手順や、ご自宅への宅急便手配のご案内が繰り返し流されています。心は既に日本に飛んでおられる方、ここでシー・ジャックしてUターンしたいと話される方など、お客様の心模様は様々です。

13時からクラブ2100では横浜入港時に飾る、お出迎えの方々への感謝のメッセージの横断幕の作成です。今日が5回目、明日6回目が最後の仕上げとなり完成します。完成写真を出そうかと思いましたが、当日のお楽しみ。ご覧になりたい方は、どうぞ大栈橋にお出迎えにいらして下さい。

14時からシアターでチャリティーオークション。ご乗船頂いたエンターテイナーや講師の方々にご協力頂いた品々を、お客様に競って頂きました。良い買い物をした方が大勢のようです。売上は難民救済支援の国連UNHCR協会へ寄付させていただきます。

午後の呼び物はモンテカルロでの「お楽しみ大抽選会 ぐるぐるドン」。特別ゲストの回し役は桑畑機関長です。お客様の運は全て機関長の手に。ビックシックスの針がどこで止まるかで、一喜一憂です。

今夜のショータイムはソプラノシンガー柴田智子さんとピアニスト内門卓也さんの2回目のコンサート。お客様と合唱になった東日本大震災応援歌「花は咲く」が心に沁みました。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

終日航海日

Date : 2016/03/16 緯度 : N 30度 7分 経度 : E 153度 52分 天気 : 晴れ 気温 : 17.0度 速度 : 16.8ノット
海域 : 太平洋 寄港地 : 終日航海日



今日はこのクルーズ最後のフォーマルナイト。「飛鳥のフォーマルナイトは揺れる」のジンクス通り、低気圧と高気圧の狭間を航行中。風が前方に回り、波浪が強まり、船の揺れが大きくなりました。

船の揺れにもすっかり慣れたお客さま方は、船長主催のフェアウェル・パーティーに向けて心が踊っておられるようで、準備に余念がありません。AVEDA (サロン&スパ) は午前中から予約で一杯です。

さて、フェアウェルパーティーは、飛鳥Ⅱが誇るプロダクションキャスト10名のパフォーマンスで煌びやかに始まります。威風堂々と終わる時代を代表する名曲と踊り、華やかなステージがギャラクシーラウンジを盛り上げます。もちろん、お客様の艶やかな装いは舞台に負けません。

そして、締めくくりに増山船長以下シニア・オフィサーが登場しました。船長は「本当に難しい大航海でしたが、お客様のお陰で無事に横浜に帰り着きます。有難うございました。また飛鳥Ⅱが恋しくなったら、いつでもご乗船下さい」とクルーを代表して御礼のご挨拶です。

続いて年間最優秀クルーの表彰が有り、お客様から大きな拍手を頂きました。表彰されたクルー達は、晴がまし表情でした。フィナーレにはキャビンスチュワードスが登場し、ギャラクシーラウンジは「蛍の光」の大合唱です。

フォーマルディナーのフォーシーズンダイニングではこのクルーズの食を支えた西口総料理長、岡本副料理長、内藤和食シェフがお客様にご挨拶をし、大きな拍手です。「有難う」の掛け声がお客様からかかります。フォーマルディナーのデザートはこれも伝統のベークドアラスカ【炎のアイスクリーム】の登場です。

フォーマルナイトの締めくくりはギャラクシーラウンジで”ルーテシア”のコンサート。チェリスト斎藤静さんを中心に、第一ヴァイオリン海和伸子さん、第二ヴァイオリン塩田脩さん、ビオラ千原正裕さんです。春の声、懐かしの日本の歌、太陽がいっぱい、そしてリクエストにおこたえして、津軽海峡冬景色でした。弦楽四重奏の音色でエレガントにフォーマルナイトが幕を下ろします。皆さま今夜は素敵な夢を見られる事でしょう。



Cruise : 南極・南米ワールドクルーズ2015-2016 (100)

終日航海日

Date : 2016/03/17 緯度 : N 32度 28分 経度 : E 146度 19分 天気 : くもり 気温 : 18.0度

速度 : 16.6ノット

海域 : 太平洋 寄港地 : 終日航海日



いよいよクルーズ99日目最後の洋上的一天です。皆さま下船の準備にお忙しいので、今日はノーアクティビティーデーです。

船内のあらゆるスペース、パームコート、リドカフェ、通路のソファー、ランドリー、グランドスパ等々でお客様同士の会話が弾んでいます。クルーズの思い出話や、ご自宅の事、次のクルーズの話で船友との時間を惜しんでおられます。

午前中の目玉は「南極南米ワールドクルーズビンゴ大会」。皆様をご参加頂けるよう、2会場で同時開催です。最後の最後まで幸運の方はどなたでしょうか。スタッフが寄港地で集めたローカル色豊かな記念品を獲得されたのは？

午後コンパスルームでの飛鳥Ⅱ芸術展。カルチャー教室で勉強された成果を生かした作品や、長年の趣味を生かした作品、プロ並みの芸術作品が並びます。絵画に写真に習字にアートクラフト等々。船長賞、副船長賞、機関長賞などが優秀作品に贈られました。

海の素敵な計らいで、午後にイルカの大群に遭遇。船のそばで跳ねる姿はいかにも「お帰りなさい」と歓迎してくれているようです。夕暮れには水平線に見事に太陽が沈みました。あわよくばグリーン・フラッシュかと期待しましたが、少し緑色の残光が見えただけでした。

本日の最大のエンターテイメントはロングクルーズでは恒例の飛鳥Ⅱクルーショーです。クルーズを通してお客様の傍でサービスさせて頂いたクルー達、縁の下の力持ちでクルーズを支えてきたクルー達、そして最後はシニアオフィサー達の寸劇『南極物語～飛鳥スペシャル～』。なんと私も特別出演しました。忙しい合間を縫っての練習の成果を発表しました。感謝の気持ちを込めた演技は十分にお客様に伝わったようです。



Cruise：南極・南米ワールドクルーズ2015-2016（100）

横浜帰港

Date：2016/03/18 緯度：N 35度 27分 経度：E 139度 38分 天気：晴れ 気温：17.6度 速度：0ノット
海域：- 寄港地：横浜



いよいよ横浜入港日です。18時間の遅れは取り戻せませんでした。予定より2時間遅れで大栈橋に着岸です。

今朝は予想よりずっと良いお天気でした。緩やかな南風で温かく、右舷側には房総半島、左舷遠くに伊豆大島、その後ろになんと富士山が春霞の中に遠望できました。

懐かしい観音崎灯台を左舷に見て東京湾を奥に進みむと、遠くにランドマークタワーと横浜の街並みが霞んで見えます。日本最初の洋式灯台である観音崎灯台、東京湾に帰って来たんだと感動が湧く船乗りのシンボルです。

大栈橋にはお出迎えの方々が沢山おいでです。無事に南極南米の大航海を終え、帰ってきました。各旅行代理店の「おかえりなさい」の横断幕に、手作りの「おばあちゃんおかえりなさい」が混ざります。帰国されたお客様が船に掲げた横断幕は、「究極の南極・南米ワールドクルーズ2015-2016達成感謝」でした。お客様の手作りです。

客室のTVの航跡図がぐるっとつながり、航海終了です。

最後までフォト・エッセイにお付き合い頂き、ありがとうございました。

飛鳥IIは明日、三菱重工横浜造船所に入渠し船体の整備を致します。

4月7日出渠後は、日本近海のクルーズを開始します。

皆さまのご乗船をお待ちしております。

